



265  
8



始





沖繩縣視學渡邊信治著述

視學試年



265-8



視學貳年

沖繩縣知事鈴木邦義閣下題字  
沖繩縣内務部長島内三郎先生序文  
沖繩縣師範學校長保田銓次郎先生序文  
沖繩縣視學渡邊信治著述

那覇

三笑堂書店發兌



表頭の文字は  
著者の直筆なり



至誠

邦義書





序

本縣視學渡邊信治君、其の現職就任以來集會に、刊行物に公にせる教育上に關する論說を蒐輯して「視學貳年」と題し上梓せんとするに方り、君が需に應じ序言一片を寄す。

我が沖繩の地、鹿兒府を南に距る四百海里、内地との交通頗る利便を缺く、殊にこの地や別異なる歴史の沿革と有し、言語、風俗、習慣の尙他と趣を異にするもの尠しとせず、其の藩を廢して縣を置き、内地と其の



制度を齊しくするや、政府は先づ最も重きを普通教育の普及に置き、銳意之を振興に力めたるや洵に其所なり、此を以て現下我縣各種の教育施設を見るに殆んど他府縣に比し何等徑庭あるを見ずと雖、然かも其の内容實質に至りては、之が充實改善を要すべきもの太だ多く、未だ他に及ばざること遠きものあるを認めずんばあらず、就中最も喫緊なるを教育者其の人の研鑽と努力にありとす、我沖繩の土地避遠に、氣候温暖に、加ふるに嘗て日支の間に介在し苟且の夢に酔ひ

たる南島の沿革は、縣民を驅りて一般に悠暢逸樂の性向を帶ばしめ、清新潑瀾たる進取、研究の積極的意氣に缺如せる所あり、實に刺戟の過少に伴ふ攻究心の磨靡は縣民の通憂にして特に本縣教育者の最も戒しむべきの事たり。

渡邊視學夙にこゝに見る所あり、其の眞摯なる態度と該博なる智識とを以て本縣教育界に於ける諸般の事象を討究し、時に臨み處に應じて之が研鑽の結果を論述し、以て教育者の指導啓發に努むる所あり、其の叙す



所悉く肯綮に當り教育關係者の爲に得る所少からざるものあるを認む、敢て之を江湖に薦む。

大正六年六月 日

島内三郎

序

本縣視學渡邊君就任以來各所に於て講演せられ、或は新聞雜誌に發表せられたる論說感想等を蒐めて、之を刊行せらるゝに當り、予に所感を需めらる。予は君と殆と同時に本縣に着任し、公私提携して今日に至り、君に負ふもの甚だ多し。豈一言なくして己むべけんや。顧ふに本縣普通教育の施設は他府縣に比して、さまで遜色ありとも覺えず。然れとも之か内容の改善充實に至りては其の餘地決して少小にあらざるべし。君の着



眼亦實に茲に出でず。君は先づ邦人體力減退の状態を察し、特に本縣人の體格を顧念して大に體育の必要を絶叫し、又本縣普通語普及の前途遼遠なることを深慨し其の一方便として盛に國語教授の改善を唱道し、立憲思想の養成に就きては法制智識の涵養と責任觀念の養成の急務なるを説破し、殊に國民精神の涵養に就ては我が國史の成跡に基き、彼我の道德を比較し、我が國道德の精華を顯揚して、彼の輕佻なる現代思想家を斥伏し、更に漢學と我が國民性との關係に論及して所

謂新思潮の研究者に警告を與ふる等、中々に切實痛快なるもの少からず。國定教科書の活用を説きては郷土の研究を奨励し、又自學自習の訓練の重要なる所以を説き大に兒童の學習態度の改善を企圖し、又農業教育の普及を以て立國の根本義と痛論し、教育者の人格の力の偉大なることを説述し、尙本縣の現狀に鑑みて教育者の大同團結の必要なる所以を喝破せらるゝ等言々句々時弊救済の熱誠に出でざるはなし。予は平素屢々君と往復談論し或は同行して共に學事を視察し、其の



所見所感を一にする所多し。本書所載の各篇大率然らざるはなし。其の本縣小學校各科教授批評要項の如き將又歴史教授論の如きも大体に於て予は著者に同意を表するに躊躇せず。

著者の視學として縣教育行政の樞機に參與せられし所の者は局外の窮ひ知る限りにあらざれども、最近一兩年の間、本縣教育社會に顯現せし所の事象殊に一般に向上せる刷新の氣運と本書所載の事項とを對照せば讀者も亦心に肯かるゝ所あるべし。予は讀者に對して著

者の所見所感に共鳴して益々其の氣運を高潮せしむることに努力せられんことを望む。

現代は多事なり。我が教育社會は一日の安處を容さず僅に六箇年の義務教育すら其の普及徹底に於て未だ容易に樂觀するを得ず。補習教育は遅々として未だ振はず。社會教育の設備は極めて貧弱なり。科學的知識の尊重といひ、獨創的能力の啓發といひ、時局に刺激せられて近來漸く覺醒したるが如き觀あるにあらずや。

國家教育の前途は遼遠なりといふべし。殊に本縣教育



の將來は著者の如き識見あり實行の力あるの士に俟つ  
所のもの多し。予が君に囑望する所今後一層切なるも  
のあり。君亦之を諒とせらるゝなるべし。茲に本書を  
推奨すると共にいさゝか微衷を述ふること爾り。

大正六年六月一日

保田銓次郎

渡邊ぬしの

ものせし文を見て

そゝきける君が心の眞澄水に

教の園やいやさかえなん

大正六年六月 日 蟹江虎五郎



## 自序

大正四年五月十四日任を帯びて沖繩縣に至る、爾來本縣に視學たると己に貳年に及へり、其の間教育關係諸會の需に應じて講演せしことあり、又新聞雜誌社の委囑によりて卑見を掲載せしとあり、又沖繩教育編輯主任として自ら執筆せるあり、斯くの如くして予が口と筆とによりて成れる論說感想凡そ二十餘篇に達しぬ、其の多くは直接又は間接に本縣教育上社會上の事象に對して立論せるものにして、一として本縣教育の發展

のために物せざるはなし、然も聊か確信を以て發表せるもの、是をして一場の空言に終らしむるは予が所信に忠實ならざるの憾あり、偶々某先輩の徳懃と書肆の出版を引請けんと欲するの意あるに際し、其の材料を取捨して、視學貳年と題し、之を刊行して同好の士に頒つことゝなしぬ。幸に一讀の榮を賜はり尙且つ示教を仰くを得け予が本懷之に過ぎざるなり。

本書の發行に際し、鈴木知事閣下よりは題字を賜はり島内内務部長及保田蟹江の両師範學校長等の先進より



は序文又は和歌を寄せられ、本書に一段の光彩を添へられたるは眞に感謝に堪へざる所なり。茲に特筆大書して謹て深謝の意を表す。川部視學官よりも序文を寄せられるゝの約ありしも、本書發行の時恰も御上京中なりしたため遂に其の榮に浴する能はざりしは甚だ遺憾とする所なりき。

大正六年六月二十四日蕉風爽かなるの夕

那覇區久米町の僑居に於て

著者識す

# 視學貳年

## 目次

一、國定教科書の活用	一頁
教科書の制度……教科書の利用……國民的教材……生活的教材……郷土研究	
二、我は彼に勝れり	一〇
輕佻なる思想界……世運は回轉せり……農業民族の特徴……西洋民族は遊牧民族……日本道德の美点……戦前戦後の白人……吁義勇奉公の精神	
三、時務の推移と德育	二三
希臘思想の一大革新……明治維新後の思想の變遷……道德の二方面……道德の進化……彼我道德の比較……道德と經濟……道德と名譽……道德と交通	
四、國語教授の改善	四三



目的より見たる國語教授……方法より見たる國語教授……到達点より見たる國語教授

五、教育上の施設に就て……………六四

教育の傾向……自學自習……學校圖書館……本縣と體育……縣人體格劣悪の原因……眼病と皮膚病……就學出席の奨励……字配置教員の効果と優遇

六、時勢と教育……………八一

獨逸の教育尊重……我が教育尊重……立憲思想の養成……國家の重要問題……教育界の通弊……今の人は賢い……古への賢人……人格の威力……教育者の覺悟……憲政不振の原因……責任觀念の養成

七、農業教育は立國の第一義なり……………九二

經濟の獨立……農事改良……經濟機關の運用……國民休位の下落……現時の教育

八、法制智識の涵養と教育者……………一〇〇

青年教育の二大眼目……今後の教育者……道德と法制……法制史に徴す……演職事件……法制に關する智識

九、教育家の大同團結……………一二二

哲人國……德治國……教員國……戦後の教育革新運動……社會の通弊……我が沖繩縣……因縁深し……大同團結

一〇、大に體育を興すべし……………一二八

獨帝の豫言……邦人體力下落の趨勢……邦人享年……死亡率……三十歳迄の人が死ぬ……壯丁及學者の體力低落の狀況……砂上の樓閣……我沖繩縣人の體格は如何……今後の體育の方針

一一、宮古郡教育改善……………一三〇

交通不便と教育……人格の修養……自覺の意義……交通と公德……地と人……教育改善策

一二、漢學と我國民性……………一三五

漢學の衰微……漢學の出版……文章上の方面……思想上の方面……維新當時の漢學者……絶好の讀物……新思潮の研究者

一三、今後教育の努力點……………一四八



明治維新以後の教育と其弊……思想の混乱……情操の乾涸……意志の薄弱……國民体位の下落……今後教育の努力點

一四、歴史科教授論……………一五五

第一、歴史科と新思潮との關係……………一五五

主智主義教育の弊……現代の新思潮……東洋道德の特色……徳川時代の儒教……東西學派の比較評論……儒教の功績……情意教育と歴史科

第二、歴史科の目的……………一七三

感情意志の修養……歴史専門學者と歴史教育家……歴史教育の價値

第三、歴史科教授の要旨……………一八〇

國民志操の意義……國体と政体……憲法制定と國體の特色……我皇室の慈仁……歴史上の思想感情……一般學說と國民思想との關係

第四、國定歴史教科書の取扱……………二〇二

(1) 人物を題目とせる教材……………二〇二

國定歴史教科書編纂の方針……直觀的方便物の準備……直觀的

(2) 事件を題目とせる教材……………二〇八

政治的事件と教法……戰爭的事件と教法

(3) 時代名を題目とせる教材……………二一三

時代の特徵……時代を生じたる原因……時代の前後……年代表の取扱に就て

附 說

(1) 國定歴史教科書の缺陷……………二一七

無味乾燥……語句文章の難解……其救濟方法

(2) 國定歴史教科書修正要領……………二二〇

新舊兩版の比較……教育者の研究を望む

一五、本縣小學校各科教授批評要項……………二四〇

視學貳年目次終



# 視學貳年

渡邊信治 著



## 一 國定教科書の活用

予は本縣に就任して以來日も尙淺いことであるから、本縣の教育に就いて未だ確信を以て公表する程の材料は甚だ少ないが、予が本縣の小學校を視察して第一着に氣が付いたのは國定教科書のことである、即ち全國劃一の教科書が本縣の事情に適應しない所が澤山あつて教授上頗る不便であり窮屈であると思つたのである、一體教科書の問題は獨り本縣の問題でなく、我日本教育上の一大問題である、文部當局に於ては必ず平素



研究しつゝあることであると思ふ、本縣に於ては特に之に就て充分の研究をなす必要があるのである、故に予は今國定教科書に就ての卑意を述べて諸君の御参考に供したいと思ふのである、現今世界各国に行はれて居る教科書の制度は大別して二種となすことが出来る。

教科書の制度

一、國定制一制度

一、自由編纂制度

國定制一制度は現今我日本で採用して居る制度で、自由編纂制度は民間で編纂したものを採用する制度である、この兩制度には何れも一長一短があるが、自由編纂制度は編纂宜しきを得たならば實に良き教科書を得ることが出来ると思ふ、仍て予は制度としては最も良いと思ふのである、

世界各国は一二の國を除く外は皆之の制度を採つて居る、我日本でも明治三十六年迄は矢張り此制度を採つて來たのである、此の制度は制度としては最良のものであるが、これには一種の忌々しき弊害が伴ふことがある、我國が斷然之を廢して現行の國定制を採用するに至つたのは彼の教科書事件の後のことで、思ふに弊害を防止するの精神であつたらうと思ふ、然らば外國にはかゝる弊害は起らないかと云ふと、米國などには矢張弊害があるといふ事である、歐洲各國に於てはかゝる弊害はないやうであるがどう云う譯かと言ふと歐洲各國の本屋は教科書を出版することを余り喜ばない風がありて第一流の本屋は教科書などは引受けないといふ事である、これは専門の書物の方で充分に利益があるのと小學校の



教科書は非常に安く出版することになつて居るから、日本のやうに烈しき競争をしないさうである、其故に自由制度を採つて居つても弊害が起らないのであらふと思ふ、然るに我日本で自由制度にしたならば第一流の本屋は大資本を仰して全力を傾注して之を一手に壟斷せやうとして猛烈なる競争が起るに相違ない、かゝる國狀であるから如何に制度其者は良いとしても恐るべき弊害が伴ふから、どうも自由制度を採用することは六つかしいと思ふ、我日本が三十七八年以來斷然自由制度を廢して國定にしたのも此の意味に外ならぬと思ふ故に現行の國定劃一の制度によりて必ずしも最良の教科書を得らるゝと豫期したのではないだらうと思ふ、國定劃一の制度は一方に於ては國民性を統一するといふ方面から言へば

頗る有力ではあるが、地方の特殊の事情を無視するといふ缺點があるのである殊に本縣の如き總ての事情が他府縣と著しく相違せる所に於ては全國劃一教科書に對しては大に不平を言ひたくなる本縣の如きは本縣丈の教科書を編纂する迄進んで來なければならぬと思ふ、然し之は理想で今日俄かに之を實行することは出來ない、故に今日の場合に於ては止を得ず窮屈なる教科書を用いて出來る丈劃一の弊を除く事に努力せなければならぬ、即ち教科書は死物である之を活かして用ゆるのは人にあるのである、故に教員は最善の力を盡して國定教科書の利用を考へなければならぬ、由て予は之より此利用に就て臆意を述べて見やう、小學校令第一條を見るに「小學校は兒童身體の發達に留意し國民教育道德教育の基



礎を作り兼て生活に必須なる智識技能を授くるを以て本旨とす」とある。其中の体育のことは本問題に關係が少いから之を省畧して、國民教育道徳教育の基礎を作るといふこと、生活に必須なる智識技能を授くるといふことによりて教材を二種に大別することが出来る。

一 國民的教材…………… 一般的

一 生活的教材…………… 地方的

#### 國民的教材

國民的教材とは日本國民として何人も修得せなければならぬので國民性を完成し國民道徳を涵養するといふ点に於て頗る重要なる教材である、即國民教育の基礎的のものであるから此教材に就ては慎重に取扱はなければならぬ、教師自身は堅實なる思想を維持し三千年來養ひ來れる善美な

#### 生活的教材

る國民性に對し、又世界無比の發展をなせる國民道徳に就て堅き信念を有て居て、惡文學や浮薄なる哲學思想の爲に國民思想の動搖を來すやうな事があつてはならぬ、次に生活的教材は地方的郷土的教材の中に入るべきもので、生活に必要な智識技能を授くるといふことは其生活せる地方の人情、風俗、氣候風土との關係を離れては出來ないことである、故に生徒の生活せる土地の情況を調査して、地方の實際生活に適應する教育を施さなければならぬ、本縣の如き特殊の事情を有する地方に於ては此方面の努力が最も必要であるに拘はらず、本縣の教育の現状は此点に於ての研究が未だ充分でないと思ふ、尙一層の奮發を希ふ次第である。



予は先に生活的教材は即地方的郷土的教材と云ふたけれども、それは説明の便宜のためであつて、地方的教材は實に生活的のみに限らぬ國民的教育上頗る肝要である、例へば忠孝の觀念は國民教育の根本であるがその觀念を養ふために各地方の美風良俗を利用する事が頗る有効である、反之地方には偏狹なる人情風俗がある即ち山國には山國根情がある、島國には島國根情がある、之等は國民的大思想大感情によりて矯正しなければならぬ、以上の理由により郷土研究と云ふことは頗る必要である、かくして教科書の劃一の弊を救ふことが出来るのである、故に諸君に希望するのは

一 郷土誌の編纂

- 一 郷土的の標品生産物圖表等の作製蒐集
- 一 歴史的記念物の蒐集保存
- 一 郷土の人情風俗の調査
- 一 郷土生活に必要な算術の問題の選定
- 一 郷土的理科教材の研究、地方的言語及發音の調査等

以上の中より適當なる教材を精撰して之を教授細目の中に添加補充して地方的教化を全からしめなければならぬ、此の如くにして一方に於ては國家の一員としての教養も出來、亦地方の實際生活に適應する人間を作る事が出来るのである、以上は主として教材の研究である、一體現今の小學校側に於ては研究會とか批評會とかと言へば多くは教授方法の研究で



ある、方法の研究も至極結構ではあるが、尙一步進めて教材の研究に努力せられんことを希望するのである、教材の研究は教師自身の實力を増進する所以である、實力の豊富は教授法の拙さを補ふ事が出来るが如何に方法が巧みであつても實力を補ふことは困難であると思ふ、今後は諸君と共に此方面の研究をやつて見たいと思ふて一言所感を述べた次第である。

(縣教育會總會に於ける講話)

## 二 我は彼に勝れり

(新思潮の研究と國民性の自覺)

### 一、輕佻なる思想界

大正の御代は空論の時代にあらずして實行の時代である、然るに我國の

輕佻なる思想界

現状を見るに空遠なる議論の多い割合に實際問題が閉却されて居るやうである、見よ一度び新思潮なるものが出ると恰も枯野に火を放つたやうに流行するが、一方には國民体育の革新、元氣の振興、國民道德の涵養等の議論は殆ど上下識者の間に瀰漫して居るではないか、然らば我教育界は之に對して學校衛生の改善、修身其他教授の徹底等の實際的施設に關し特別の努力を要さなければならぬ時であるのに、之等を閉却して却て高遠なる外來思潮を追ふに忙しいといふ有様でありては眞に遺憾に堪へない次第である。是等新思潮なるものは皆哲人考察の餘に出でたるもので、予輩淺學敢て其學說の眞理を疑はんやだ、然れども、我學界が之を迎ふる態度に就ては甚だ氣に喰はぬ所がある、一時はオイケン、ベル



グリーン熱狂したかと思へば、之も未だ半解にして忽ちタゴールを迎ふ、其態度の輕佻にして浮薄なるには驚かざるを得ない、恰も朝に越客を送りて夕に吳郎を迎ふる唱婦の夫れに似たるものがある！、而して又何でも新思潮と云へば一も二もなく金科玉條の如く考へて是によりて直ちに萬事萬端を律せんとするものさへある、識者の國民思想の動搖を憂へて居る今日、是を黙々に附する譯にはいかぬ、之は多年西洋熱に耽毒せる餘弊が今尙存するからだらうと思ふ。

世運は回轉せ

二、世運は回轉せり

夫れ國には各長短あり、西洋にも長處があれば東洋にも長處がある、殊に近來西洋の新思潮と稱せらるゝものは漸次東洋的色彩を帯ひて來るこ

とは争はれぬ事實である、即ち近時勢力を有つて居る主意的觀念論の如きは大分東洋的傾向を有つて居る（去る講習會で述べられたる小西博士の主意的理想主義も同じであると思ふ）誰れか云ふ思想の源泉は西洋に限ると、今や世界は一大回轉をなして我國民は其傳來思想の美点、國民性の特色を助長して以て世界列國に對せなければならぬ時機になつたのである、この事は文部大臣及知事の訓示の中にも明かに見へて居る、依て今茲に傳來思想及國民性の由來する所を究めて我國民の自覺を促したいと思ふ、由來國民思想とか國民性といふものは社會學的に歴史的地理學的に其の基礎を持つて居るものである、以下之を論証せやう

農業民族の特

三、農業民族の特徴



我日本民族は農業民族より發達したものである、故に古へより米穀を食ひ、綿布絹布を着、木造草葺の家に住居し、頭に編笠を頂き、足には草履下駄を履いて居る、かく衣食住の生活品をば皆植物より取つて居る、且又「**農は國の大本なり**」とは建國以來の爲政の大方針である、是によりて見ても農業民族たるは明かである、農業民族は定住民族である、祖先の土地に永住して移動せざる靜的民族である、是に於て祖先崇拜の觀念も祖孫相續の思想も生じて、家族制度なるものを作つた、孝悌友愛の情も自然とこゝに發したのである、殊に我國は君民同祖の一大家族制度である所より、忠君愛國の思想も發達したのである、而して又我國は到る處所謂山紫水明で、氣候も温和、四時の風景にも富んで居る樂園郷で

ある、この美しき自然の感化により、高潔温和快活等の美風を養成せられたのである、故に平時にありては國民相親和し、慈仁なる皇室の下に太平和樂の生活を送つて居るが、一旦事ある時は前述の祖先の崇拜、忠君愛國、高潔温和快活等の國民性は、凝つて一丸となり、國のためには一身一家を顧みざる義勇奉公の犠牲的精神となる、かくして三千年の美しき歴史を作つて今日に至つたのである、この義勇奉公の精神は將來益助長して永く後世子孫に遺すへき我民族の貴重なる遺産である。

#### 四、西洋民族は遊牧人種

西洋民族は遊牧民族  
であつた、今日でも常食に肉を食ひ、牛乳を飲み、毛織の服を着け、土や石で作つた家に住み、頭には毛製の帽子を戴き、足には獸皮の靴を穿



ちて居るなど、總て生活品を動物より取つて居る、是即ち遊牧人種より發達したる証據である、遊牧民族は水草を逐ふて移轉する動的民族である、而してこの遊牧民族は他の民族との争鬪のために酷き迫害を受けて移動を次々に移動を以てして居るので、祖先の地や墳墓の地などを省みる遣はない、故に祖先崇拜などいふ美しき情操などの養はるゝ機會がある筈はない、かゝる移動の場合に彼等の念頭を去らざるものは只自分の生命と財産とで他を省みる事は出来ない、此の如くにして個人主義となるのに寧ろ當然の事である、此等民族が漸次發達して、國家社會を組織するや、元より差別無き人間の集合であるから、之を公平に取扱はなければ治らぬ、是に於て平等といふ徳目が出来た、平等を實行するには

他人の譲る丈けは我に譲らなければならぬといふので、こゝに正義の觀念が生ずる、平等正義を尊ぶ所より、他人の壓迫を受けることは禁物で苟も壓制を行ふものがあれば、死を以て之に當らなければならぬといふことになる、即自由の權利といふものが出来る、米國の獨立戦争の時に米國人が「我に自由を與へよ然らずんば死を與へよ」と絶叫したのは彼等民族性の發露である、此くの如く平等正義自由などは西洋人の最も尊重する徳目となつたのである、而して權利といふ觀念も之に伴ふて生じて来る、隨て人格尊重の觀念も自然と生じて來たのである。

#### 五、日本道徳の美点

反之我日本の國家組織は、建國以來君臣父子兄弟といふ關係が嚴然と定



つて居て、各其分を守りて互に侵さざる即ち差別有る人間の集合体である、故に西洋の様に自由とか平等とかいふ道徳は發達しなかつたが、其代り忠孝友愛などの美しき道徳が發達したのである、權利の觀念よりも先づ義務の觀念の方が早く發達したのである、換言すれば、西洋は權利の觀念が先づ發達し、日本は義務の觀念が先づ發達したといふて間違はなからうと思ふ、道徳上の理想より言へば日本の方が遙に勝れりと思ふべきである、義務の觀念の最大なるのは即義勇奉公の犠牲的精神で、是は我日本に於て最もよく發達したる最高最美の道徳である、西洋の歴史にあるが如く君臣父子の間に權利の争をなすが如き醜体は我國に於ては絶無である、然るに人或は日本人は人格の觀念が乏しい、權利の思想が欠

けて居るなどいふ、予輩も亦之に同感である、然し之がために日本の道徳が西洋のそれと比して劣れりと論結するものあらは、予輩亦何をか言はんやだ、論者の言の如く人格の觀念も養はざるべからず、權利思想も養はざる可らずといふ其言葉の裏には、世界に稀れなる道徳の存在することを忘れてはならぬと思ふ、曰く強烈なる義務の觀念である、義勇奉公の犠牲的精神である、予輩をして言はしめば崇高なる人格とは犠牲的精神の豊富なるを意味する、楠公や乃木大將の偉大なる所は此点に存するのである、西洋の如く個人の權利を尊重する國でも、其信仰するキリスト教の教戒は、優者長者のために自己を犠牲にするといふことが其の教旨の最も偉大なる所である、神が人間を作つたのは何かの犠牲にす



るためだと説いて居るではないか、是を以て見ても犠牲的精神は彼等西洋人と雖も渴仰嘆美して措かざる道德思想であるといふことが分る。

戦前戦後の白人

#### 六、戦前戦後の白人

然るに彼等白人の精緻なる天稟の脳力は十九世紀に於て燦然たる物質的文明を作り上げて、是によりて彼等は自ら世界の優秀民族なりと誇稱した、他國人も亦其光輝ある文明に眩惑して之を崇拜するに至つたのである、然し科學の進歩と物質的文明とを以て世界に誇れる彼等の社會には唯物論的個人的快樂主義とでも云ふべき思想が横流して、一意唯奢侈と享樂とに耽りて日も亦足らずとなし、我の逸樂、我の幸福を逐ふに汲々として、常住坐臥忘るべからざるは我なりといふ状態であつて「身を殺

して仁をなす」といふやうな犠牲的精神などは殆ど見ることは出来なかつた、キリストの教戒も之に對して如何ともすることが出来なかつたのである、然るに先年の夏埃塞兩國に事起りてより戰雲忽ち全歐の天地に覆くや、歐洲各國民は祖國のために蹶然劍を取て起ち、苟も男子にして兵馬に堪ゆるものは、競ふて戰場に赴き、或は風塵さ原頭に臥し或は奴隸も潔しとせざる粗食に甘じ、學國一致義勇奉公の務めに餘念なしといふ有様である、戦前、奢侈と享樂とを貪りつゝあつた彼等の今日惡闘苦戰に堪ゆるの状を見ては、誰れか其一大奇蹟として驚かざるものあらんやだ、如何に安逸と奢侈とを耽りつゝあつた彼等は之の戰爭によりて初めて學び得たる義勇奉公の精神が將來必ず貴重なる道德として彼等の社



會に獎勵せらるゝに至るは識者を俟たずして明かである。

吁義勇奉公の精神

### 七、吁義勇奉公の精神

是、實、に、三、千、年、來、世、界、無、比、の、發、達、を、な、せ、る、我、國、民、特、有、の、精、神、で、あ、る、我、國、民、性、の、特、長、で、あ、る、此、点、に、於、て、我、は、範、を、世、に、垂、るゝの、感、が、あ、る、予、が、我、は、彼、に、勝、れ、り、と、題、せ、る、は、實、に、之、の、意、味、に、外、な、ら、ぬ、の、で、あ、る、然、し、現、時、の、交、戰、諸、國、民、の、奉、公、の、狀、況、よ、り、察、す、れ、ば、此、の、点、に、於、て、我、或、は、彼、に、一、籌、を、輸、す、る、の、感、な、き、に、あ、ら、ず、だ、然、し、之、の、精、神、は、世、界、に、卓、越、せ、な、け、れ、ば、な、ら、ぬ、我、國、民、の、特、長、で、あ、る、我、國、民、た、る、も、の、大、に、鑑、み、な、け、れ、ば、な、ら、ぬ、最、後、に、一、言、し、た、き、は、新、し、き、理、想、を、追、ふ、こ、と、は、眞、に、望、ま、し、き、こ、と、で、あ、る、然、し、な、か、ら、常、に、脚、下、を、顧、み、な、け、れ、ば、遂、に、は、轉、躓、を、免、れ、な、い、古、語、に、曰、く、「鹿

を追ふものは山を見ず」と味ふべき哉。

(沖繩教育所載)

### 三、時勢の推移と德育

私が本日講話せんとする演題は「時勢の推移と德育」と言ふ問題であります。此の問題は特に本縣に對しての問題でなく廣く日本全國に亘りての問題でありまして特に其の一部分は他の場所に於ても發表して江湖の識者に訴へたことがあります。本日も同様に自分が年來考へ來りし所の卑見を陳述して諸君の御參考に供するのであります。偕て我々御互の取扱ふ所は重に道德に關する問題でありますから、道德に就きては充分の確信を有することが必要と信じます。



ろこで道德は時勢の推移と言ふことゝ大なる関係がありますから、先づ時勢の推移と道德との關係に就きて陳べて見ませう。ろこで又時勢の推移の大なる場合は革命でありますが、古代に於て彼の希臘が波斯に對抗して戦勝を得たる結果此の戦捷に大功ありたるアテネは非常の繁盛を來しました。其結果希臘は波斯戦争以後社會状態の變動を來し諸般の文物も大に革進を促しましてアテネが其中心となりました。其思想上特に倫理道德哲學等の方面に於てはソヒスト即ち詭辯學者なるもの出で、舊來の風俗習慣に對し批評的懷疑的破壊的の態度を取り、盛に新道德の鼓吹に努めました。

希臘思想の一  
大革命

是は實に希臘思想の一大革新を促したのでありますが、併しながら舊來

の風俗習慣を悉く破壊し去ると言ふことは實に人の確信を失ふものであつて却つて社會を危険の狀態に陥らしむるのであります。ろこで此の詭辯學者に反對して起つたのがソクラテスでありますが、氏は道德は萬世不易の根柢を有するものであつて彼の詭辯學者の論するが如く變化窮りなきものにあらざることを主張したのであります。氏の高弟プラトーン出で變化流轉の生滅界と常住不變の實體界とを説きて氏の説を完成し、プラトーンの門人アリストテレス出で、形而上學に於ける實在の原理を説きてプラトーンの説を大成したが是等は皆ソクラテスの説を繼承したと言ふて善いのでありませう。

維新後の思想  
の變遷

日本に於ても同様に明治維新以後西洋文明輸入の結果、思想上の變革期



が生じたのであります。此の明治の御代に於て新思想を代表したる人は彼の福澤諭吉翁であります。福澤翁は明治の初年歐洲を視察して歸來、著譯事業に従事して盛に英米流の實利主義個人主義を鼓吹し、獨立自尊を主張し、新物輸入と舊物の破壊とに努めたのであります。それで慶應義塾は一時非常なる全盛を極めて急進派の代表者となりました。又福澤翁の破壊的思想は五倫の道を否定して四倫にて足りるなどの詭辯を弄したるものであります。

此の非常なる破壊的思想に反對して起つたのが國粹保存論者であります。其の代表者は三宅雄次郎氏などでありましたが、是等の人々は五倫五常の保存を主張したのであります。此の様に於て明治の初年より二十年前

後に於いては新舊思想の大衝突があつたのであります。

それで明治二十三年には教育に關する御勅語の御下賜があつて國民の大方針が確定したのであります。此の様な思想の過渡時代に當つては教育者は常に確然たる態度を要するのであります。此の確然たる態度を持つるには急進保守の兩思想に就きて其の正否を判断する所の見識を持たねばならぬのであります。此の判断をなすには先づ先決問題として道德は變化するものなるか否やと言ふことを決定せねばなりません。そこで道德を固定的のものとすれば保守派が正であります。道德は又變化するものであるとすれば急進派が正であります。で宇宙間の森羅萬象は皆變化的方面と不變化的方面との二相を備へて居るのであります。今庭前の樹



木を見ても年々歳々カジマルは常にカジマルであつて別の樹木に變化することはありません。併しながら其枝葉を見ると年々歳々變化して居るのであります、即ち活物には此の變化的方面と不變化的方面との二面があるのであります。

道德の二方面

そこで道德も活物でありますから同じく此の二方面を備へて居らねばなりません。然らば道德の不變化的方面は何であるかと言ふと即ち道德の精神的方面であります。又道德の變化的方面は何であるかと言ふと即ち道德の實際的方面であります。又其の精神的方面と言ふのは何であるかと言ふと善に對する精神であります。即ち三千年以前の孔子も五百年前の楠公も又外國のソクラテースもキリストも此時代に於て善人である

と認められたが今日に於ても是等の人々を善人と認めないものは無いのであります。即ち此善と言ふ觀念は變化せないのであります。善に對する實際的方面は如何と言ふに、昔の仇討は昔は善であつたが今日では悪である。曾我兄弟や、四十七士の行動は其の當時は善であつたが今日では刑法上の罪人とならねばならぬのであります。此の如く君父に對する至情に於ては昔も今も變化しないのであるが實行の方面には變化があるのであります。

又衛生上の問題に於ても同じく身體を健全にすると言ふ目的は常に不變であるが其の方法的方面に於ては滋養物の種類も運動の種類も變化して居るのであります。そこで道德に於ても一定不變萬世不易の根柢の上に



立つて、又變化的方面に依り道德の補充的進化を圖らねばならぬのであります。例へば勇氣と言ふ道德に就きて考へて見るに勇は昔は希臘等に於いても四元徳（勇氣、節制、睿智、正義）の一として特に男子の道德であつたが、今日は女子にも必要の道德となつて居ります。又昔は戦時に於ける道德であつたが、今日では平時に於ても必要の道德となつて居ります。又昔は體力の道德であつたが、今日では意志の道德ともなつて居ると言ふ様に一つの徳目も漸次補充的に變化して擴充せられて居るのであります。然らば道德は如何に進化するものであるかと言ふことを考へて見ると夫れは消極的より積極的に進むのであります。即ち何れの國でも道德の初は宗教でありまして彼の西洋に於て、基督教が道德であり

## 道德の進化

又東洋に於ては天を崇拜したのでありまして彼の支那古代に於て天子が「天に則る」「天命を奉ず」など言ひしは是れであります。此の様に古代の道德は皆宗教から起つて居りますが、然らば其の教祖の教はどんなものであるかと是を調べて見ると、佛教、基督教、回々教等の戒と云ふものを見ると皆「爾殺す勿れ」「爾盜みする勿れ」「爾姦淫する勿れ」等の「勿れ主義」即ち消極的の教であります。又儒教に於ても彼の中庸に「施<sub>レ</sub>諸己<sub>二</sub>而不<sub>レ</sub>願。亦勿<sub>レ</sub>施<sub>レ</sub>於人。」と言ふ様な言葉がありまして皆消極的であります。所が今日の道德は「向上せよ」とか「發展せよ」とか言ふ様に皆「何々せよ」と言ふ積極主義であります。

以上陳べたる所に依りて道德には變化的方面と不變化的方面とがあり、



其の變化的方面に於ては消極的より積極的に進化し且つ補充的に進歩するものであると言ふことが決定せられたのであります。

そこで我々教育者は今後の道德教育に於て不變化的方面としては忠孝一本の精神を確立し變化的方面に於ては補充的に進まねばならぬのでありまして、此の不變化的にして我國道德の根底たる忠孝の觀念を忘すれて變化的方面にのみ著眼して不健全なる思想に陥るが如きことがあつては誠に寒心す可き事でありませぬ。此の根柢の忠孝觀念を補充する意味に於て西洋の道德思想も研究せねばならぬのであります。

そこで我々は彼我道德の長短を比較研究する必要が起つて來るのであります。で日本の社會組織は家族が單位であり、西洋の社會組織は個人が

彼我道德の比較

單位であるから、此の二つに就きて長短を比較せねばなりません。

ところで家族制度の弊とする所は例へば此に家族の一人が犯罪をすれば其の家族の全員を處罰すると言ふが如きことであります。彼の佐倉惣五郎の如きは其の適例であります。即ち罪三族を滅すと言ふ様な刑法であります。是れは家族制度から來た刑罰法であつて實に苛酷で又不合理のことであります。其他にも短所がありますが、家族制度の精神はなかく立派で飽く迄も之を失ふてはならぬのであります。世界無比の發展なせる我國家族的道德の長所は何處までも保存せねばならぬのであります。所で家族道德の缺點、主として如何なる方面にあるかと言ふと夫れは社會的道德の方面であります。



是れから社會道德の方面に就いて我國民の缺點とする所を陳べて見ませう。我國の古諺に「旅の耻はかき捨て」と言ふ事がありますが、是れは誠に社會道德の缺乏を意味した言葉であります。即ち家庭にありては父母に孝に、兄弟に友に、夫婦相和する所の善行者でありながら旅に出でれば亂暴をする虚言を吐く横着をすると言ふ様な不道德を敢てして何とも思はないものもあります。是が社會に對する道德心の缺乏から來るのであります。先年私が上野の圖書館の落成した時に行つて見ましたが、入口は廣いが出口が非常に狭い、一人宛しか通行が出来ない、夫れから門監に其理由を聞くと、出口を狭くして置いて一人宛検査をせねければならぬ、若し左様でないと圖書館から圖書を持出す人がある、

書籍でも讀まうとする人であるから、ろんな盜賊などをする人はない筈であるが、年々圖書が紛失したり圖書中の繪畫などを切り取られる事が多い、夫れであるから是れを防ぐ爲めであると答へた。是れには誠に驚いたのであります。

又我國の公共の建築物は外國のものに比較して其の破壊の割合が早いと言ふことであるが、是も我國の社會的道德が缺乏して居る一つの證據であります。又社會的道德の缺乏から人を疑ふと言ふことが多くなる。我國の俚諺に「人を見たら泥棒と思へ」と言ふが如きは其の證據であります。外國では公共の建築物などを破壊することは非常の罪惡と思ふのみならず。年々多くの大學に匿名を以て莫大の寄附金をなす者が多い所を



見ても如何に外國人が公共物を尊重するかと言ふことが知らるゝのであります。又信用の點に於ても英國の電車には「切符切り」が居ない皆乗客は金を出して一定の箱に入れるのだらうです。外國人は切符制度などを設くるのは國民の耻辱である人格を輕蔑したるものであると考へて居るのでありませう。彼の日清戦争の際に我國は清國よりの償金を英國に於て領收し、時の英國公使加藤高明氏は是を倫敦銀行に預金したのであるが倫敦銀行は之に對して何等の證書をも出さなかつたと言ふことは人口に膾炙せられたることでもあります。

又英國に於ては汽車の二等室を設けぬとのことである。又一等列車に乗る人も少ないので全廢説もあるとのことである。其の理由は英國に於て

は如何に下等社會の人であつても乗車中決して人に迷惑を掛けると言ふ様な事がない、夫れであるから上流の紳士も下等社會の人と混乗することを決して厭はないといふことでもあります。所が日本では到底そんな譯には行かない、田舎などから出て來た所の赤毛布の爺さんなどは汽車や電車の中で人に迷惑を掛ける様な事があつても少しも何とも思はないのであります。其他随分見すばらしき風をして乗るものがありますからどうしても日本では一等室の必要があるのだらうと思ひます。是れも社會道德の缺乏から來て居るのであります。

然らば外國人は非常に道德が發達して居るかと言ふと必ずしも左様ばかり言へないのであります。即ち外國人は世間に對しては見得を張る所が



ある。であるから停車場や埠頭などに於て夫の送迎などの時には人目も憚らず三十分以上も接吻などをして居るから如何にも夫婦間は睦まじき様であるが、纏つて家庭内に於ては夫婦間の権利義務の争がある。又米國などに於ては随分離婚の數が多い所から見ても、外國人は家庭外に於て親密なる割合に家庭内に於ては圓滿ではないらしい、即ち社會的、道德は我國よりは勝つて居るが家族道德は却つて我國よりも劣つて居ると思ひます。新渡戸博士の名著なる武士道の中に「米國人は他人の面前にて妻をキツスし私室にありては此を鞭つ日本人は之と異り他人の面前にては妻を打つも私室にありては此をキツスす」とあります、我國に於ては人の前に於ては妻を卑下して其の親密なることは却つて耻かしくすると言

ふ有様であるが、家庭内に於ては非常に相愛するのであります。即ち此所が我國の家族的道德の美なる點であつて、是れは何所までも保存せねばならぬ點であります。でありますから我國の根柢たる家族道德の美點は何所までも是を保存して短所を補充的に進めねばならぬのであります。又社會道德の補充的方面に就いて人を疑ふ即ち人を不信用すると言ふことは經濟問題と大關係があるのであります。手形の流行と言ふことは經濟上二倍の働をするものであつて若しも總て現金を渡さねばならぬと言ふことなれば經濟活動は非常に澁滞するのであります。所が日本では手形の未拂と言ふ様なものがあつて手形の不信用の爲めに經濟界の圓滑を缺いで居るのであります。是れも我國の缺點とする所であります。又信



用の薄き爲めに金を扱ふ或公共團體にて金庫の鍵を三つも造つて三人集らねば金庫が開かぬと言ふ様な所もあるさうであるから、自然多數の人員を要するのであります。是れも社會道德の缺乏を示して居る證據であります。是れでは實に我國民の道德心も誠に寒心に堪へぬ次第であります。

道德と行善

又社會道德の缺乏と名譽と言ふ事に就いて少しく陳べて見ませう。西洋などでは新聞などで人を攻撃するにも極めて慎重の態度を以てやるさうであります。彼の米國のルーズヴェルト氏が大統領の候補者として競争した時に反對派の新聞が彼は酒飲みであるドラランカーであると言ふ攻撃をしたのでルーズヴェルト氏は名譽毀損の訴訟を起した所が裁判官は是に向

つて五萬弗の賠償を命じたと言ふことが新聞にありましたが此の一事を以て見ても如何に外國人が名譽を尊重するの觀念が強いかと言ふことが知らるゝのであります。然るに我國の新聞に於いては嘗て海軍の某大官が收賄したと言ふので其の人を攻撃する爲めに彼の妻は娼妓であると言ふやうな問題以外の人身攻撃をしたことがありました人の名譽に對してはもつとも尊重するやうにならなければならぬと思ひます。

道德と交通

又社會道德の進歩と交通と言ふことに就いて一言申上げたいことがあります。即ち社會道德は交通頻繁の所に發達して交通不便の所は不進歩であると言ふことでもあります。道德は人と人との關係が繁くなる程社交的となる、社會道德は社交的の處に生ずる、例へば田舎の人などが赤毛布



を着て都會に出て汽車や電車の中で人の邪魔になる様な事があつても平氣である又勸工場などに這入つて品物の値段を三十分間も値切つて居ると言ふとがあります、是等は田舎に於て掛値の習慣から都會の人をも疑ふと云ふことになつたのであらうと思ひます。

斯様な次第でありますから、我々教育者は道德問題に注意して道德上我國民の長所たる家族的道德の根柢に對する確信を有することを努むると共に其の短所たる社會的道德に對して補充的の意味を以て進み、猥りに新思潮に溺れ危險思想に陥ると云ふ様なことのなき様にせねばならぬと思ひます。是れが私の時勢の推移に對する教育上の卑見であります。

(中頭郡教育會に於ける講話)

#### 四 國語教授の改善

國語科は何れの國でも國民的教科として、最も重要な科目であつて、之が教授方法に就ては、種々の研究が行はれて居る、我國でも同様で頗る重要な學科として取扱はれて居る、殊に本縣に於ては普通語普及との關係もあるので、特に注意しなければならぬ教科であると思ふ、予が各郡に出張した際に特に留意して視察した學科の一つである、其教授に就て改善しなければならぬと氣付いた處は夫れ々其學校に於て、折に觸れて批評したり、指示したりしたのであるが、今日多數の教員諸君の集合せる處で、一纏めにして、お話しすることが最も有効であると思ふ、



#### 四四

故に茲に國語教授の改善といふ題で、其大要を口演して、御參考に供しやうと思ふ、尤も注意して置きたいことは、先程比嘉君より話し方に就て適切なる講話があり、次に佐久田君より綴り方に就ての有益なる講話があつたから、予は主として高學年に於ける國語教授に就て述べる方が良からうと思ふのである、其積りで御清聽を希望する次第である

- 一、目的より見たる國語教授
- 二、方法より見たる國語教授
- 三、到達点より見たる國語教授
- 一、目的より見たる國語教授

目的より見たる國語教授

小學校令の教則第三條を見ると「國語は普通の言語、日常須知の文字及文章を知らしめ正確に思想を表彰するの能を養ひ兼て智徳を啓發するを以て要旨とす」とある、之によりて見ると國語教授の目的は言語文字文章と思想の表彰との知能を授けるのが第一主要の目的で、是を形式的目的といふ、次に文字文章で表示してある内容即ち智徳の啓發といふことが第二の目的で是を實質的目的といふのである、言語教授に於ては形式的目的が主眼で、實質的目的は副次的である、これは教則中に明かに見えて居る、之を例すれば理科や歴史や地理等の學科に於ては、寧ろ内容即實質的の方が主眼で文章で書いた教科書などは無くとも其科の教授の目的を達することは出来る、たとひ教科書を用ひるとしても其文字や文

#### 四五



章を教へることが主要の目的でない、此点に於て國語科と反對である、然し小學校に於てはこの兩様の目的を閉却してはならぬ、各科に於て出来るだけ形式、内容の兩方面に向て注意して貰らいたいのである、然し教科目の性質によりて各特有の目的を有つて居ることを忘れてはならぬ、目的に本末輕重の差があることに注感して居らなければならぬ、國語教授に於ては飽くまでも教則に示して居る通り、形式的目的を本務として、實質的目的を兼務としなければならぬのである、國語科は形式的目的が主眼である以上は、其教授の順序は内容即實質より入ることを制限して形式即文章より入ることを本体としなければならぬ、然し教材によりては内容より入る方が便利とあるとする場合もあるか、本体は形式より入る

を以て至當とするのである、然るに一般の小學教育に於ては往々學科の主眼目的を閉却されて居る傾があるやうである、閉却されないにしてももつと主眼目的に向ふて力を注がなければならぬと思ふ、今例を以て申せば、「鯨ハ海ニ住ム動物ニシテ其體格甚ダ大ナリ」といふ教材がありと假定せば、之の教材を取扱ふに、理科教授として取扱ふ場合と、國語科として取扱ふ場合とにより、其方法を異にすることは諸君の已に御承知のことと思ふ、國語科に於て鯨といふ動物に對して詳細なる内容の説明は其教授の目的を達すに於ては却て妨げとなる、國語科に於ては文字文章思想等の形式を主とするか故に、文字の讀方、書方、文章の作方といふ方の側に主力を注がなければならぬ、理科に於ては然らず、文字文章な



とは甚だ軽く取扱ふて主として鯨に就ての内容方面の説明觀察に主力を注がなければならぬ、然かるに今に行はる、國語教授の通弊を今例示した教材に就て申せば、鯨に就て發問をしたり説明をしたりして恰も理科教授のやうなことをやつて居る、尤も發問も説明もしなければならぬがそれも程度がある、其れがために大分の時間を費し、國語科本然の目的に向て充分に主力を注ぐことが出来なくなるといふやうの缺陷があるのである、國語教材の中には地理的、歴史的等の教材もあるが、其教材の内容の教授に關しては夫々地理歴史等の科目に譲る所が多いことを忘れてはならぬ、故に國語教授に於ては之等の内容に就ては一通りの意味を解するに止めて、可成其説明のために大分の時間を取らぬやうにして、

主力を本然の要旨に向て集注しなければならぬが、往々にして、主目的を忘れて居るものがある、之れは本縣ばかりでなく、我國小學、中學の一般の缺陷ではあるまいかと思ふ、かゝる缺陷があるがため、學生は淺薄なる智識を收得して居つて、口先ばかりはなか／＼立派のことをも言ふが、文を書かせても碌な文章は書けぬといふ風である、今日一般に國語の力が足らないといふ非難のあるのは、國語教授の方法の宜しきを得ざることも其一の原因をなして居ると思ふ、昔の國語漢文の教授方法は余程形式的目的を重んじ、讀書と云へは先づ素讀を何篇もやつて、内容即實質の方面は後にしたのである、之は餘り極端であつたが、語學教授の順序としては正當であると思ふ、故に昔の教育を受けた人は、文章を



書く方面に於ては今日の人よりも遙かに勝つて居る点が多い、天才ではあつたが、頼山陽などが、十七八歳の時に作つた詩文を見るに實に驚く程立派のものがある、此時代の學習の風は、内容を後にして先づ文章の形式方面より入つたのである、昔の風が全然良いいといふのではないが、現今の國語教授に於ては大に反省しなければならぬと思ふのである。

方法より見たる國語教授

## 二、方法より見たる國語教授

現今の國語教授は前述の通り大なる缺陷がある、故に教授方法に就て大に改善しなければならぬ点がある、子輩の見たる處によれば、今日の小學校教育に於ては一般に發問法と説明法を整理節約する必要があると思

ふ、一体、西洋の教授法が輸入されて、ヘルバルトやラインの五段とか三段とか云ふ段階教授法などが非常に流行して、今日では我教育界に深き根底を有つて來たが、余りに方法にのみ拘泥するの結果は方法の小技小策を弄することとなり、自然と發問教式が濫用され、説明が冗漫となつて來たのである、發問式教法は教育上有効なる教式で重要なものではあるが、一般に今日の教授には愚問愚答の多いのには驚かざるを得ない、之がために無益の時間を費して居るのは眞に憂ふべきことだと思ふ、故に發問法説明法を整理節約して、直ちに教授の主眼点に突進するやうにしたいのである、殊に國語科の目的は前述の通り内容よりも形式的方面に重を置かなければならぬのであるから、愚問愚答を廢し、説明



をも可成簡單明瞭にして、單刀直入に注入する部分の多いことを忘れてはならぬ、發問は其教材の急所／＼に就て價值ある發問をなさねばならぬ、謎のやうな押問答をして、貴重の時間を費すのは策の得たるものでない、發問教式は新教授に於ては成るべく節約して、復習に於ては成るべく多く用ゐるのが最も有効であると思ふ。

發問過多と説明の冗漫とは遂に教師本位の教授となり、教師のみ口舌を弄し、生徒は傍聽入のやうな風になつて来る、小學校教育に於て大に忌むべき現象である、教授は専門學校などの講義レクチャーとは異なる、小學校の教授に於ては兒童本位でなければならぬ、一時間の授業時間中、兒童をして充分に其教科の學修に就て其心力を働かせるように仕向けなければなら

ぬ、教師本位の教室に於ては生徒の惰けて居るものが出る、居眠りして居るものもあるといふことになる、近來、教育社會で、兒童本位の教育、など云ふ聲が聞へ出したのは、此邊の消息を洩らしたもので、時弊救済の聲であると思ふ。

今茲に實際國語教授の段階に就て云ふて見れば、先づ豫備の段に於て思ひ切つて、發問を節約し、教授の段に於ては逐一、一語一句を發問式に用ゐて時間を費すは勞多くして効少し、一語一句の意義は可成簡單明瞭を可とす、一体一語一句の意義は文章より飛び離しては其價值は少ない前後の關係的詮索により初めて生命を持つて来る、然し便宜上語句の説明を文章より引抜いて説明することも良いことではあるが、關係的方面



より知らしむることが最も有益であることを忘れてはならぬ、吾々の経験によりて見ても、語句に就ては前後の關係的詮索により學得したる部分け少くないと思ふ、そこで予は、先頃述べた發問法説明法の整理節約によりて得たる時間を以て、多く讀ませたい、多く書かせたいのである、昔し歐陽修の三多といふことがある、多讀、多作、多書である、之は今日の學修法に於ても尙ほ眞理であると思ふ、然るに今日の國語教授は、教師の口舌空談が多くて生徒の讀むこと、書くことが少ないといふのは甚だ遺憾に堪へざる次第である、讀書百篇主義で文章を暗誦せざることは甚た必要だと思ふ、此点に於ては、教員諸君の反省を乞いたいのである、又多く書かせるといふことも必要である、書取を大に獎勵しなければな

らぬ、書取の方法に就ても、尙一考を煩はしたいのである、今日一般のやり方は難字の抜書さすといふ風であるか、之も強ち悪いことではないが、予か經驗によると、生徒が誤字を書くのは一字として書くよりも熟語としての方に誤りが多いやうである、書取も熟語として書取らせたい、又文章として書かせたい、又意味から文章を書かせるやうにするのも必要であると思ふ、とにかく今日行はれて居る書取法はまだ一改善の余地があると思ふ。

一体國定教科書は教材の分量はどちらかと言へば、少い方である、高學年でも、一時間の分量は僅かに五行乃至一頁位である、五行や六行の教材なら、教授した後では生徒は、讀んだり、書いたり、解したりすること



の自由自在でなければならぬ、然るに進度が遅く困るとか何とか言ふて居るのは、甚だ意氣地のない話である、元來今日の教授法は、余りに方法の型に拘泥して、方法に就ては随分研究して居るが教授の結果、を吟味するといふ方面が甚だ冷淡である、教授が型に囚はれて眞剣でない、故に學校に行つて學力の調査をして見るに、其結果の不成績なるに驚く、今後の教育は教へたことは必ず覺へさす、命じたことは必ず實行さするといふやうに力ある熱ある徹底的教育をしなければならぬ、予は視學に初めて就任して以來如何にして視學の職責を盡さんかと苦心して他府縣の例などを調べて見たり、亦外國の視學の様子などを書物の上で調べて見ると、獨逸の視學のやり方は頗る徹底的である、獨逸の視學は

學校に行つて同一學校に數日滞在して全校生徒の學力試験をやつて見て復命書は試験成績表であるといふことである、之によりて、學校の良否教員の優劣を定めるといふことである、獨逸教育が如何に徹底的であるか又如何に教授の結果に重きを置いて居るかが察せられる、獨逸の今日あるは故なきにあらずだと思つた、我日本か此風を全然眞似るといふことは俄には出來ないが、日本は之に比すれば浮調子であると思ふ、結果から見ない方法は適切でない然し近來漸次堅實の風になつて來て、内容充實とか教授の徹底などいふやうなことが朝野の識者の間に高唱されるに至つたのは眞に喜ぶべきことであると思ふ。

### 三、到達点より見たる國語教授



實際社會の状況を見るに、世人が書物や新聞雜誌を讀むに當つて、如何なる内容か書いてあるかは知らないで直ちに文章に打ち當るのである、其中には不知の文字もあるだらう、難解の文句もあるだらう、學校で習はなかつた文字文句も澤山あるだらう、然し世人は前後の關係より推量して讀解して居る、漸次頭の方か進んで來ると條理の上よりがくくであらねはならぬといふて推讀をやる、斯くの如くにして、自然と讀書力が付いて來るのである、例へば學問上の術語タームや新流行の語句などは、新聞雜誌等を讀むに従つて、自然と大体の意味を解して來ることは吾々の日常實驗する所である、換言すれば、實際の社會生活に於ては、形式即文章より内容に入るといふ順序である、内容を豫め大凡知つて居つて後

文章を知るといふのではない、然るに現今行はるゝ學校の國語教授法は如何であるかと云ふと、新文章を教ゆる前に必ず其中の新文字、難文字、難句等を抽出して、其讀方意義を先づ教へて後文章を教へることか一般の教式である、故に生徒は未だ文章を讀まない内に既に其の文章の大意は略分かつて居る、而して後文章を讀むといふ風である、即ち内容より形式に入るといふ順序であつて、實際社會生活とは反對である、然しこれも低學年の教授方法としては最も良い方法である、又高學年に於ても教材によりては、強ち悪い方法ではないと思ふが、高學年になりてもこの方法のみを行つて居つては宜しくないと思ふ、新出文字、難文字を抽出して説明して後文章に移るといふ方法を終始一貫やつて居るといふこ



とは、恰も航海の前に何時も海路の暗礁を取除けて置くと同しく、何年たつても航海術は發達しない、實際に役に立たぬ、故に今日の教授方法は低學年にはよいが高學年になるに従つて漸次新文字を摘出説明することを少くして、分らぬ所も推量して讀んだり推量して意味を酌み取るといふ練習を奨励して、漸次實際社會生活に近か付かしのなければならぬと思ふ、故に予は今日のやうに萬篇一律の方法に拘泥せず、教師の監督の下に推讀推解をも奨励したいと思ふのである。

かくして生徒の讀解力を養成することか最後の到達点である、讀むことを解することを同時に行はれるやうに注意しなければならぬ、昔の教育は素讀と講義との時間か大變に隔たつて居つたが、それは宜しくない讀

解は一致しなければならぬ、之は今日でも注意しなければならぬと思ふ予か壯丁學力調査の状況を視察した時、壯丁が讀めても意味の分らぬものかあつた、又教育勅語などは暗誦は出來ても意味か一寸も分らぬものもあつた、斯様なことも國語教授に於て注意を拂はれたのである。

次に自學自修の態度を養成しなければならぬ、元來、維新後の我國の教育は知識の輸入に忙はしかつたため、一般の教育が主知的教育で知育に偏したのである、故に教授の方法も、如何にして生徒に理解せしむべきかといふ事のみに腐心して、是に就ては教師は有ゆる方法を講して智識の傳達に努めた、其の故に生徒は御苦勞なしに學習か出来る、學習の獻立は全部、教師かやつて呉れるといふ風になつた、それで生徒は、依頼



心を起して、自ら努力して學習するといふ風は漸々薄らぎ來りて、試験の時に一氣呵成の勉強をやるといふ風で自學自修の良風は地を拂はんとした、所謂軟教育が行はれたのである、之は獨り日本ばかりでなく、西洋でもろうであつたやうである、然るにこの弊害を認めて、主知的教育ではいかぬと、意志の教育を重んぜなければならぬといふので、近來、主意的思潮が滔々として思想界を流れて居る、即ちプラグマチズムやモンテウツリーの勤勞主義とか持離さるゝやうになつたのを見ても確かに主意的傾向が分る、意志の教育はやがて實行の教育である、文部大臣の訓示中にも質實剛健の人を作れといふ意味が見へてある、之は意志の教育に待たなければならぬ、口ばかりの人物が多くなつては困る、實行の人

を作らなければならぬ、故に何の學科に於ても自分から進んで眞面目に學習する風を養成することは眞に必要なことであらふと思ふ。

故に學校教育に於ては大に自學自修の態度を養成するとに努力しなければならぬ、かくして卒業後自力によりて學力を増進させるやうに仕向けなければならぬ、教育は學校在學中のことはかりを見ないで卒業後のことをも考へることが肝要である、一体我國では卒業とは業を卒へると書くけれども業を卒るではなくて業を初めるのである、英語では卒業といふことをグラジュエーションと云ふグラジュエーションといふ字義は漸々進むといふ意味である、高等の教育を受けたものでも、其學識や人格は卒業後の修養に大關係がある故に卒業後漸々進ましむるには是非共學



校に於て自學自習の態度を養成しなければならぬのである、日常生活上より見て、國語教授に於て最も其必要を感じるのである、以上は予が國語教授に就ての所見の大要である、今や我國の教育は最早、形式の美を貴ぶ時代は過ぎて内容充實を圖るべき時期に達して居る、教授力を徹底せしめなければならぬ時代である、教員諸君の一層の奮勵を希望する次第である。(師範學校研究會に於ける講話)

## 五 教育上の施設に就て

教育の傾向 先日安村校長から縣下各小學校を視察して得た所感と首里區に對して必要なる施設事項とに就き本會で話してくれとあつたので、まづ現今の教育界一般の傾向と本縣教育とに關係ある事項に就き少しく述

べて見やうと思ふ、現今我が帝國の教育界の状態を視察するに以前とは随分様子が變つてきたやうに思はれる、從來日本の教育方針は學校教育に重きを置き、子弟の教育は一つに學校に於てのみ施さるやうに思ふてゐた、そして一般社會も總てさういふ傾向を持つてゐた、佛蘭西の如きも我が日本と全く學校教育を重視して居る、然るに英國に於ては學校の教育より學校卒業後即ち社會に出るからの教育に非常なる注意を拂つてゐるやうである、で我日本の如きも今日に於ては最早學校教育に重きを置くといふよりは寧ろ其卒業後の教育に注意を拂ふやうになりつつあるのは誠に良い傾向である、英國に於ける大學生の言葉に「學校は遊戯運動を第一にする處で研究は第二である」といつてゐるやうであるが、即



ら學校在學中は運動遊戲を盛にして大に身心を鍛練し他日社會に出る基礎を作り卒業して愈々社會に出たら大に活動もし研究もせやうといか精神である、日本に於ては是迄學校教育を重視した結果人を任用するにも肩書を見る傾向があつた、如何に人物がよく實力を有してゐても何々學校卒業生といふ肩書が無ければ採用してくれないといふ状態であつた、又師範學校卒業生にしても在學中成績劣等の者は優等生に比して卒業後も不待遇をされてゐる仕末である、然し今日に於ては漸次さういふ傾向が無くなり實力の時代が近いてゐるのである、又實際から見ても在學中成績優等のものが必ずしも卒業後成績がよいとはいはれない、在學中は成績稍々劣つてゐたものが卒業後社會の爲め國家の爲め大に活動してゐる

ものがいくらもある、大學出にせよ専門學校出にせよ、吾々の知つてゐる者にも随分澤山ある。

自習 自學

自習自學 斯ふいふ状態であるから小學校教育に於ても其邊に注意して單に兒童に對して教へる覺へさせるといふばかりでなく、學校を卒業して後も自分で自分を教育して社會の爲めになるといふ自習自學といふ精神を充分養成して貰ひ度いものである、目下全國の教育社會では此の自習自學と云ふ事を大に唱導し頻りに實現に努めて居る、で今日は學校教育ばかりに重きを置かずして、教育者は生徒が學校卒業後も自ら進んで學び、向ヒの道を計り社會の爲めに役に立つやうに仕向ける事が必要であると思ふ、即ち學校の訓練も平素生徒自身で頭腦を練ると云ふ方針を



取つたらよからう、嘗て彼の菊地男爵はエマーソンの言葉を引用して教育者に示された事があるエマーソンは斯う云つて居る、「教育とは學校で習つたものを忘すれてしまつて其残つたものである」と云つた、學校で習つたものを忘れてしまつて残つたものは何であるかと云ふと即ち人格である例へて申せば學校で教つた孝行の話は忘れたが實際は親には孝行をして居ると云ふのは其人格があるからである、然るに従來の學校教育は生徒をして試験の前日に機械的に下しらべをなさしめ其れを巧く白紙に書て表せばよいと思つてゐるやうでは頗る誤つた教育法と思はれる。

## 學校圖書館

學校圖書館 其處で教育者は從來の如く單に學校教育ばかりを重視せず尙ほ進むで卒業後に於て社會の爲め國家の爲めに役に立つやうな人物を

造り出するやうに方針を立てねばならん、之を實現せしむるには即ち小學校に於ても常に兒童自身で所謂自修訓練をなさしめるのが必要である、自習訓練を奨励する方法としては種々あるであらうが、讀書の趣味を養成する事などは最も適切な事と思はれる、由來現今使用して居る小學校用の教科書は其内容が餘りに乾燥無味であるから兒童自身が進むで讀まうとする心を起させ得ない缺點がある、其處で教科書以外に兒童に興味を興へ得るやうな書籍雜誌等を備へて置く必要がある、即ち學校圖書館や兒童文庫等を學校に設置して兒童をして自由に讀書を爲さしめ自ら學ばしめる方法を取つたら結構である、亞米利加あたりでは其れを非常に奨励し大に實行して居るやうである、例へば圖書館内に活動寫眞や或は種



々の繪圖を陳列して一般人士に自由に觀覽せしめ知らずくの間人心を牽き付けて居るうである、我が日本に於ては近來其邊に留意するやうになつて學校圖書館文庫の如きは各府縣の小學校中等學校等に設置せられて居るやうである、本縣にも既に兒童文庫の設置せられて居る所もある、之れは生徒に讀書習慣をつける爲めには極く必要であるから出來得る限り一般小學校は勿論中等學校にも是非設置して大に之を利用したのである、只だ而し本縣に於ける兒童文庫の缺點として書籍雜誌の種類は多數に亘つて居るが同一種類のものが部數が少いやうに見受けるから同一種のもを多數備へて置く必要があるである、斯う云ふ適切なる方法を取つて一般の兒童をして愉快に讀書せしめ、教授に際しても常に

## 本縣と体育

此心掛けを以て兒童に臨み自修訓練自習的教授法に留意せねばならぬ。  
**本縣人と體格** 次に體育に就いて一言述べて見たい、我が日本國民の體格が漸次劣惡になりつゝあるのは争はれぬ事實であつて、毎年執行せらるゝ全國壯丁検査の結果に見るも明かなる者である、由來日本國民は出生率に於ては割合に良好なる變りに、一般に早く死亡するやうである、最近の調査した統計によると日本人の平均死亡時期は三十歳内外で、生れてから三十年目に死ぬ者が多いとの事である、之れに反して西洋人は六十歳七十歳以上にて死ぬるものが多く日本人と比較すると西洋人の方は長生するのである、翻つて之れを本縣に見るに本縣人の體格は全國中最劣等であるは毎年の徴兵検査の結果が之を證明してゐる、何故に本縣



人の体格が斯く劣悪であるがと云ふ事に就いては種々原因があるやうである、縣當局では、先頃各郡區役所島廳に照會して各小學校醫をして本縣人の体格劣悪の原因を調査せしめ、其意見を徴して見たが何れの醫者の意見も本縣人は

第一に營養不良であること

第二に泡盛の飲料多きこと

第三に血族結婚が多いこと

第四が花柳病患者が多いこと

此四つが四大原因をなして居ると云ふことが一致して居やうである。

本縣人の体格が不良なる所以は前に述べた如く四大原因に歸着するとす

縣人体格劣悪  
の原因

れば教育家はこれを救済する適切なる方法を講究せねばならぬ茲に私は其四大原因に就いて少しく述べて見やうと思ふ。

第一に本縣人が一般的に營養不良といふのは其毎日の食物が澱粉質のみが多くあつて蛋白質が少いからであらうと思はれる郡部地方に行つて見ると殆んど甘藷と味噌汁ばかりが常食となつてゐて肉類や魚類を食すること、が極めて少いので大低營養が不良である、然るに漁村の住民や兒童は皆健康で發育が極めて良好である島尻郡に見るも糸満や具志頭村湊川の如きは兒童の体格が頗る佳良であるといふのは絶へず新鮮な魚類を食するからであらう、要すに營養の不良は甘藷と味噌汁常食とする農家に多く見受けるのであるから、教育家に其邊に注意して農村の兒童をし



て蛋白質を有する食物を多く食用に供するやうに勧めたらうと思ふ。  
 第二本縣人は上下を通じて一般に泡盛を多量に飲用するの風がある、泡盛は強度の酒精分を含有するが故に之を多量に飲用するは大に身体に害がある、本縣人の諸會合には大概泡盛を多量に飲用するが常である、之が縣人体格不良の一原因であるといふことである、教育者の大に顧慮すべきことであらうと思ふ。

第三は血族結婚の弊であるが、これは親族同志は勿論本縣田舎地方では同字結婚が多年の因習になつてゐるやうである、即ち同字内に於て男女の結婚を許し、決して他字から嫁をもらつたり嫁にもらはれたりせないから、永い間には体格が退化して薄弱になる道埜であるまいか、而し近

來においては此同字結婚の弊害は漸次改りつゝあるのは誠に喜ばしいことである、又本縣は早婚であるといはれてゐるが、これも今日に於いては既に改り過去に屬してゐる、斯ういふ問題は學校においても常に研究して卒業後補習教育又は社會教育の方で指導もなし矯正もする方法を取つたらよからうと思ふ。

第四は花柳病である、本縣は花柳病患者が多い事は全國中でも有名なもので實に憂ふべき現象である、其れは郡部地方に密かに行はれてゐる男女の夜遊などが原因をなしてゐるのであつて、田舎に行くとき子供が頭や顔などに腫物が出来て居るものを多く見受けるが、あれは即ち遺傳的梅毒である、之れは社會風教と忽にすべからざる問題であるから教育家が最



も注意すべき事であらうと思ふ。

眼病と皮膚病

眼病と皮膚病、以上述べた外に本縣人の最も多いものは眼病（トヲホー  
ム）と皮膚病である、此は其患者の多い点に於て全國中五、六等を下ら  
ないとは困つたことである、殊に小學兒童に此病氣が多いのは憂ふべき  
事であつて之れに對する豫防の方法、治療上の施設は學校に於て是非あ  
つて欲しいものである、郡部地方を廻つて見ると學校の先生が膏藥をつ  
けてやつたり點眼をしてやつたりして居るが、處によつては村費を以て  
學校醫の監督の下に罹病兒童の治療を熱心にやつて居る處もある、國頭  
郡では共同風呂を設置し烏尻郡なども共同風呂を設け月六回位入浴せし  
めて居る所もある、殊に夏期休暇には學校の監督を離れるから自然と兒

童の身体が汚くなるから其邊は充分注意せなくてはならない。

就學出席の奨  
勵

就學出席の奨勵、今一つ申上げたい事は就學及出席の奨勵である殊に首  
里區の如きは他郡區と比較して最も成績が悪い方であるから一層此点に  
努力して貰ひたいものである、本縣の就學歩合は平均九十五六で出席歩  
合も九十以上になつて居る、縣下各郡區で出席歩合の成績良好なるは中  
頭郡の讀谷山校古堅校渡慶次校等は最も成績が良い、是等は學校職員が  
出席を奨勵するばかりでなく其字區長議員と云ふ連中が出席督促に努力  
して居るからである、此点に於ては烏尻郡國頭郡も中頭郡に劣らず大に  
奔走して居るやうである、然るに獨り首里區が一向其成績が擧らず、其の  
出席歩合は八十台と報告して居る、殊に毎年猶豫者が頗る多いので本區



が他の郡區に比較して斯く貧困者が多いかと怪まざるを得ないが而し首里區は正直である何の包み隠す處もなく、實際の報告をして居るのであらう。就學に就て斯ふ云ふ事がある、中頭郡の或る五ヶ村の就學歩合を調査して見ると、戸籍簿には有つて學齡簿に無いものがあつたり、戸籍面には無いもの現存して居る、斯ふ云ふ風な疑はしいものもあるので本縣の就學歩合の九十五六は如何にも怪しい点があると思はれる、而し郡部を廻つて見ると處によつては就學及出席獎勵に非常の努力をなしつつあるのを見受る、即ち學事獎勵の目的を以て基本金積立て、毎年の如く學事獎勵會を開催し出席優等者等には賞與をなし、貧困者の子弟には學用品を與へる等直接間接に就學出席を獎勵して居る所が少くない、先頃發

刊の崎玉縣の雜誌に斯ふ云ふ事が載つてゐた、東京の或新聞が崎玉縣の教育と沖繩縣とは全等であると書いてあつたので、全國中最劣等の沖繩縣と全等では堪るものかと非常に憤慨して書いてあつた、で何故かく憤慨するかといふに學事統計が殆ど全等であるからである、然るに現在縣下の學事統計を一層嚴重に調べたならば其以下に最劣等所ではない、最々劣等と云ふ有難くもない悪評を頂戴するかも知らんから、益々努力して實際の就學及出席の歩合を向上せしむるは教育者の目前の急務であつて、殊に首里區に於ては殊に非常なる努力をして貰いたいものである。

配置教員の効果 縣下郡部地方の各町村には各字毎に一名の小學校教員を配置して學事一切のことを掌らしめてゐる、歸宅後兒童の監督、出席



の奨励、學習の監視などをして直接間接家庭と連絡を計つてゐるので、何かに付けて便利である、殊に農閑期になれば毎週二回乃至三回以上夜學會を開會して學校在籍者及義務教育終了等に對して讀書、算術、作文、數學科等の補習教育を施してゐるので、中々成績がよい、或は字民の爲めに願届書や手紙などを書いてやつたりするので、字民の爲めには何かに付けて便利である、尤も之れに對する報酬として一圓乃至二圓位を支給してゐる又給せない所もあるが、其熱心なる勞力に對しては餘りに少額なやうであるから經濟の許す限りもつと多額を支給して貰いたいものだ、斯様にして郡部の教員は實に熱心でよく働く朝は學校教育に鞭を取り歸つては字民の爲めに働くので實に感心なものである、この配置教

員制度は實に農村教育に最も効果のあるもので之れを初めて布かれた其當局に感謝せざるを得ない、そしてこの制度の普及せるは他府縣には未だ嘗て見ないものであるから、まへにも言つた通り配置教員の手當を餘計にして益々其効果を擧げたいものである。(首里教育協會に於ける講話)

## 六 時勢と教育

獨逸の教育尊重

獨逸の教育尊重、今より數十年前普佛戰爭の結果プロシヤがフランスに勝つた時、宰相ビスマークは戰勝の原因を國民教育に歸したことは人の能く知る所である、又其時參謀モルトケは將來を豫言して今後の國と國との競争は國民教育と國民教育との競争であると云ふたやうである、獨逸では其時代から已に教育の尊重すべきものであることを深く感じて居



つたのである、獨逸の今日あるは實に故なきにあらずだ、我日本でも教育の貴ふべきことは知つては居つたが、獨逸の夫れの如く、感し方が深刻でなかつたのであるが。

## 我が教育尊重

我が教育尊重、昨年五月東京で開催されたる全國師團長會議の席上で某師團長は世界の**大勢に鑑みて**今後の**國力の競争は國民教育の競争である**と力説したといふことを聞いた、之は獨逸參謀の言葉を眞似たと言ふ譯でなく全く衷心より出た感想であらうと思ふ否寧ろ國民の聲であると思ふ、宜なるかな、近時國家社會我が教育に期待することが益々多くなつて來た。

## 立憲思想の養成

立憲思想の養成、顧れば我國は夙に立憲の政治か布かれたが、我教育者

は僧侶と同じく全く政治の圈内より驅逐せられた、從て教育者も亦政治などを口にするを嫌ふやうになり、偶々教育者にして法律や政治の研究でもしたならば恰も教育界の反逆者の如くに思はれたことがある、斯の如くにして政治思想の養成は直接間接新聞記者や朝野の政治家の手によりにてなされて來たのであるが、憲政布かれて以來こゝに凡三十年にもならんとして居るが、選舉界は何時も醜聞か絶たないといふ有様で、公論正義は動もすれば情實のために動かされ、憲政の運用は常に圓滿を缺き如何に峻嚴なる法律を以てしても輿論の力を以てしてもこの弊風を改むることが出來ないといふ有様であるソコで立憲思想の養成はどうしても教育者の力を借らなければならぬといふことになり、文部省では先年全



國中學校長會議にも立憲思想の養成に就て諮問せらるゝことになつた、  
兎に角この一大任務が教育者の頭上に落ち來つたのである。

國家の重要問題

國家の重要問題、亦時勢に鑑み青年團設立及活動の必要を認むるや、其  
指導を第一に教育者に委嘱せられたことは両省の訓令に明示された所で  
ある、亦時運の向ふ所海外發展の策を講せざるべからざる時に當り、海  
外觀念の養成は教育の力に俟たなければならぬといふに至つた、其他時  
勢の進歩に伴ひ國家の重要の問題は漸次教育者の前に提供せられんとす  
る傾向になつて來たので教育の任務は益々重くなつた斯くの如くなるが  
故に恰も外交官が軍事を差措いては其職務を遂行するとか出來ないと同  
しく苟も爲政の局にある者は中央と地方とを問はず、教育を差措いては

其成績を擧ぐることは出來ないといふ様になつて教育は社會上益々重要  
なる位置を占めて來たのである、斯くの如くにして時勢の要求は漸次教  
育に向て益々多きを加へて來ると同時に教員優遇の途も開かれんとして  
居る然らば現代の教育は果して其要求に應ずるの力ありや否やを考察せ  
なければならぬ。

教育界の通弊

教育界の通弊、予輩をして言はしむれば現代の教育界の施設經營は往々  
にして輕佻浮薄である教育者の議論は往々にして散漫迂遠であると思ふ、  
故に施設經營の多き割合に實績が擧らない、論議の多い割合に實行が件  
はないといふことは我教育界の通弊であると信する一言以て評すれば現  
代の教育は人格の背景を缺いて居る、人格の背景なき施設經營は徒勞に



歸し其議論も空論に終り易いのである、從て現今の教育力は頗る微弱なるのは實に慨嘆の至である、今一二の實例を擧ぐれば「烟草を飲むべからず」といふことは我國中等學校に於ける訓練要目の一となつて居る、故に在學中は禁烟の訓練を受けたに相違ないが、卒業すれば、其翌日からシガーを燻らして舊師の家を平然として訪問することは吾人の屢々見聞する所である、又女學校にて質素儉約の美風を養成せんとして在學中生徒は絹布を用ふべからず、紅紵を用ふべからずなど、日夜訓練せられて居るが、卒業證書を得ると直ぐに打つて變つて、身に綺羅を装ひ指に金の指輪を嵌めて舊師の家に御禮に来るといふことはよくある實例である、學校の訓育は是非共其人の一生を通して有効でなければならぬ、然

るに卒業後直ちに消滅するやうでは實に遺憾の至である、何も學校教育の全部が消滅する譯ではあるまいが、學校の教育力の微弱なることは争はれの事實である是は教師と生徒との間に人格の氣流が通つて居ない証據で現代の教育が人格の背景を次いてあるからである、吉田松蔭先生が僅か半歳か一年の薰陶により明治維新の俊傑を出したるに比すれば實に天地の差がある、元より時代が違ふからとは言へ、教育者の反省すべき所であると思ふ。

由來人格の背景を缺いてあることは獨り教育者のみでない、見よ政界は徒に黨争を事として常に紛擾を極め、實業界は目前の私利に汲々たるの有様でないか。



今の人は賢い

今の人は賢い、嘗て吾々が歸省した時などに家の老人が「今の人間は利口になつて困る」など、批評せられたことがある、實に適評であると思ふ、實に今日の人間は賢い之は眞に結構なことではあるが、兎角利口に立廻はるといふことは往々にして責任を重んぜざる輕薄の人となり易い

古への賢人

古への賢人、一体賢い人とは如何なる人であるか、古來孔子は聖人なり孟子は賢人なりと言はれて居る、其賢人たる孟子は常に大丈夫を以て自ら任し、「富貴も淫すべからず、威武も屈すべからず、貧賤も移すべからず、是を大丈夫と云ひ」又俯仰天地に耻ぢざるを以て一の樂みとなして居つたのである、實に賢實なる人格者であつた、然るに今の賢い人は往々にして其反對である、我利に向へては機敏だが、言行に節操なく、言

葉は其場限りて二重にも三重にも使い廻はし、行には表裏ありて、誠意といふものは認められないものがある、此の如きは決して世の尊敬を受け、けるものでない、例へば機敏に賢く立廻つて一攫千金の利を得た成金黨と、十年丹精して米一俵を得た二宮尊徳翁とを比へて見れば、前者は賢しい遣り方かも知れぬ、後者は遲鈍の愚物かも知れぬが。

人格の威力

人格の威力、吾人の道德意識は成金黨を輕侮して、尊徳翁を尊敬するのは前者は至誠を欠き後者は至誠に満ちて居るからである、楠公や中江藤樹先生や吉田松蔭先生などの流風餘韻今尚は後世に香はしきものあるは全く至誠の人格に因るのである、古語に曰く「誠は天の道なり至誠にして動かさるもの未だ是れあらざるなり」と而して教育は感化の事實であ



## 教育者の覺悟

る故に苟も教育の職にあるものは至誠の人格者でなければならぬ。教育者の覺悟、熟々我教育界を通觀するに今や滔々たる利口浮薄の風は、猛威を逞うして我教育界に侵入し來りつゝある、實に油斷のならぬ時代である、教育者は時勢の赴く處を察し、率先之を指導するの覺悟がなければならぬ、然るに從來の我教育者は何事も兎角時勢に尾行するの傾あるは實に慨嘆に堪へない次第である、少くとも人格に於て！至誠に於て！責任を重んずる点に於て！他の社界より優越の位置にあらねばならぬ、然らざれば其職責を全くすることは出來ない否時勢の要求に應ずることは出來ない。

近來立憲思想の養成といふ聲が高まつて來たといふて、小學校や中學校

で法制經濟の知識を與へよなど、大分論議せらるゝやうになつて來た、勿論教へざるの民をして大政に參與せしむるは危険であるに由り、予輩も此点に於ては大賛成である。

## 憲政不振の原因

憲政不振の原因、然しながら現今憲政不振の原因は法制の知識の缺乏といふよりも寧ろ道德上に缺陷があると思ふ、憲政の大義に通じたものでも非立憲の行動をなすものが少くない、兎角現今は口と筆との人が多くて責任を重んずる人が乏しい、權謀術策を弄する人が多くて至誠の人が少い、至誠のなき所には責任の觀念がない、責任を知らざる國民には憲政の運用は六つかしい、現今憲政不振の原因は國民に至誠なく、責任輕視の風滔々として社界に横流して居るからであると思ふ、故に立憲思想



の養成は是非共道德上より築き上げて、

責任觀念の養成

責任觀念の養成、責任を重んずる精神を養成すること第一であると思ふ。社會百般のことも皆然りて、道德の根柢を有せざれば堅實なる發達を遂げることとは出来ない。今や社會は誠實の人を要求す責任を重んずる人を貴ぶ、教育者は時勢に鑑みて、益々人格の修養に努め、至誠其職責を重んじ、以て、時勢の要求に應ずるの覺悟あるは勿論常に時勢に先んじ、一世を指導するの雄大なる抱負がなければならぬ徒に輕佻なる施設に忙殺せられ迂遠の空論に日を暮らす時代ではない。(師範學校研究會に於ける講話)

### 七 農業教育は立國の第一義なり

獨逸實業十誡の中に曰く「外國産の食料品をして汝の食卓に上らしむる

勿れ、汝の衣服としては獨逸産の布帛を用ふべく頭に戴くには獨逸産の帽子を以てすべし」と、又曰く外國人の甘言によりて是等の教訓を忽せに思ふこと勿れ、たとへ他人は何と云ふとも獨逸祖國の人民が使用すべきものは獨り獨逸國內に産する物のみといふことを確信せよ」と、是れ即ち經濟の獨立である、今次の大戦争に於て獨逸が四面敵を受けて猶克く之に對抗し得るは、實に經濟獨立の賜である。

經濟の獨立

經濟の獨立!! 是實に大戦争の與へたる一大教訓である、自國に適する物のみを作りて其他は之を外國に仰ぐといふ自由貿易の精神は、平時に於てこそ適當すらめ、一朝事有る時は危險之より甚しきはない、是れ世界各國が大戦争に於て學び得たる所である、少くとも食物の獨立丈けは是



非共覺悟せなければならぬ、今我國の現状を考ふるに日本本土の人口は凡五千万、之に對して毎年米の産額は凡五千万石、麥二千万石と算せられて居る、一人宛食料は一年に一石余に當る、先づ大体に於て食物の獨立は出来る、然れども人口は千人に對し十一人の割合を以て増加しつゝある、即ち年々五六十万人の増加を見る、然るに人口の増加の割合に食物の増加が伴はないことはマルサスの人口論の論証する所である、隨つて早晚食物の缺乏を免れない、且つ文明の進歩に伴ひ生活の程度は益々高まり、所謂自給經濟より消費經濟に移り自然、富は漸次都會に集中して遂に農村の凋落を來すことは、我國の現状を見ても證明せらるゝ所である、是の現象に對しては一方に於ては海外發展の策を講ずると共に、

## 農事改良

一方に於ては農事を改良して先づ食物の増加を計らなければならぬ。

農事改良、に就ては教育上から二方面の努力を要する、一は農業技術の改良、一は經濟機關の運用である、前者は是非共農業に關する智能の普及を必要とする、即ち農學校や農事試驗場の如き所に於て研究したる結果を一般に周知せしむることが肝要であるが、如何に立派の科學的研究も農民の智識の程度低く之を理解する智識が無かつたならば、之が應用は困難で改良進歩は覺束ない、本縣農村の現状に鑑みて一層其感を深うするのである、故に小學校、實業補習學校、農學校又は農事試驗場の如き所に於て諸般の實驗研究を爲し得るやう完全なる設備を整へ、是に依りて一般農民を指導し、且つ模範を農民に垂れ、之等學校をして農事改



良の先驅と爲す迄に、農業教育を充實せしめなければならぬ、全國の小学校補習學校農學校が擧つて、かゝる任務を盡すに至つたならば農事改良は期せずして行はれ、農村は榮え、食物は増加し、食物の獨立、經濟の獨立も出来る譯である、次に金融販賣等を掌る、

#### 經濟機關の運用

經濟機關の運用、即ち銀行殊に産業組合の如き機關の運用を圓滿ならしむることは農業改良上重大なる關係を有つて居る、斯る機關の運轉の其局の當る人は是非其道德信義を重んずる誠實の人でなければならぬ、然るに現代の社會には誠意ある眞面目の人材に欠乏せるのは眞に國家のため憂ふべきである、近來、經濟機關其他の團體に於て不眞面目なる人物が其局に當れるがために弊害百出、國利民福を害することの甚しきも

の、あ、る、を、見、る、予、輩、は、此、点、に、於、て、現、代、社、會、に、對、し、大、に、悲、觀、せ、ざ、る、を、得、な、い、の、で、あ、る、誠、意、正、心、の、人、物、を、作、る、に、は、是、非、共、教、育、の、力、に、頼、る、の、外、は、な、い、教、育、者、の、努、力、す、べ、き、所、も、亦、實、に、此、点、に、存、す、る、の、で、あ、る、予、輩、が、産、業、振、興、の、根、本、義、は、教、育、に、在、り、と、絶、叫、せ、ん、と、す、る、の、も、豈、他、意、あ、ら、ん、や、だ、經、濟、の、獨、立、を、宣、言、す、る、獨、逸、が、教、育、を、尊、重、す、る、は、益、し、故、な、き、に、あ、ら、ず、だ、更、に、眼、を、轉、す、れ、ば、今

#### 國民躰位の下落

國民躰位の下落、は朝野識者の憂ふる所となつて、體育熱は將に天下に瀰漫せんとして居る、顧ふに現代の文明は都會本位の文明である、人は華美の生活に憧憬して田園を捨て、都會に集中せんとして居る、故に都市は益々、發達するも農村は日々に疲弊せんとして居る、都會集中の影



響は國民躰格の劣惡を來す、壯丁検査の結果は都市の青年の体格は郡部の夫れよりも劣れることを證明して居る、肺結核患者の數は郡部に比して都市に多きことは統計の示す所である、而して都會集中は現代文明の大勢である、國家百年の計を思ふものは豫め之に對して適當の方策を考究せねばならぬ、我々教育者をして言はしむれば、先づ農業教育の振興と充實とを計り、大に農業の利益を増さしめ、且農村娛樂の方法を講じ、農村民をして楽しんで田園の生活をなさしむるやう仕向けねばならぬ、是れ實に國家の基礎を堅實ならしむる最重最要の方策なりと信ず、ピエーロ・伯は曰く「農業は經濟の本たるのみならず亦以て軍事の大本なり」と實に之を我國の統計に徴するも強健なる壯丁は多く農村の出す所であ

る熊澤蕃山の大學或問にも「農兵とならば本邦の武勇格別強く、眞に武國の名に叶ふべし、士農別れてよりこのかた、身病み手足弱くなりぬ、心ばかりは勇むとも敵はあはで疲るべく、病死もすべし」と書いてある、農業の富國強兵の大本たることは古今東西に亘りて其眞理たることを疑はぬ、予輩が茲に農業教育は立國の第一義なりと題せるも亦此意に外ならぬ然るに我國、

#### 現時の教育

現時の教育、は動もすれば却て農村脱走の原因をなし、所謂高等遊民なるものを輩出するの傾向を生じたるは眞に嘆はしき次第である、殊に近年、壯丁検査の結果教育ある劣丁の増加を見る、蕃山の所謂身病み手足弱く、敵にあはで疲るべき徒輩の増加を見る、教育あるものにして尙此



の如し、國家のため誠に寒心に堪へざる所である、我國の教育は根本に於て誤れる所なきやを疑ふ、遮莫、上來論述せるが如く農業教育の振興と充實とにより聊か其時弊を救済することを得んか、聊か時勢に鑑みて所感を述ぶること爾り。(琉球新報所載)

## 八 法制智識の涵養と教育者

大正五年縣教育會主催の夏期講習會に於て市村博士を聘して地方自治の講習を行つた、其趣旨は己は教育家諸君の了知せられて居る所であらうと思ふ、今や時代は教育家に向て立憲思想の養成とか自治民育といふことを要求して居る、學校の教育をして町村文化の中心たるの實を擧げしめやうとするのである、換言すれば從來校門の中に蟄居し勝ちであつた

### 青年教育の二大眼目

教育者が可成實際社會の情況に着目して其の教化に迄手を伸ばさなければならぬ時代となつて來たのである、現に高田前文部大臣は今後の青年教育の二大眼目として立憲思想の養成と對外觀念の養成とを擧げて居らるゝ、其立憲思想の普及に就ては次の如く言はれて居る、  
元來人間は政治的動物である、まして吾々は立憲國民である、一個人としての資格と國民としての資格はどんなものにも附いて居るのだ、さすればどうしても政治といふものゝ根本觀念と政治道德といふことを理解しなければならぬ、而して其れは教育の力に俟つより外はない殊に將來日本は早晩普通選舉になることは明かなことであるから、其時には小學校だけの教育を受けた者でも、國會議員を選挙することが



出来るやうになる、從て小學卒業程度の者でも立憲政治の運用といふことを理解せなければならぬやうになる、然るに今日の小學校教員などは政治と云ふと慄氣を起して恐れて居る、立憲國民が政治といふことを恐れるやうなことでどうなるか、今後の青年は是非共政治道徳を理解し、憲政の眞意を體得して、先帝陛下が憲法を下し賜はつて奴隸の境遇からお救ひ下さつた御高恩に酬ひ奉らなければならぬ、是れやがて、今上天皇陛下に忠にして國家を愛する所以である云々」と……然らば

今後の教育者

今後の教育者、は從來の如く倫理道徳教育等の學術の研究のみにて満足する譯にはいかぬ、可成實際社會の一般の事情を究明すると同時に、政

治や法律に關する大体の智識を修得するの必要がある、然るに從來の教育界の狀況を見るに教育者は政治や法律などは自分の領分でないといふ風であつて、之等の學科を研究でもするものがあれば或は俗物の如くに考へ或は教育界の反逆者の如くに思はれて何となく嫌忌せられる傾向があつたやうである、斯の如くにして教育者は可成高遠なる哲學書でも翻いて居つて、自然と實際社會から遠ざかつて、徒らに白眼世上の人を看る底の人物を以て高尚なる人格の如くに思つて居つたといふ風もあつたのである、其れ故に教育者は兎角時勢に尾行せなければならぬと云ふ有様であつたのは眞に慨嘆に堪へぬ次第である、然し今後の時勢は斯の如く教育者の獨善主義を許さぬ、教育者は宜しく實際社會の事象に對して



相當の識見を有し常に社會の濁流に棹して卒先時勢を指導するの力量と勇氣とを持たなければならぬ、高田前文相の言はるゝ如く政治などを恐れて居るやうな教育者では我が新興國民を養成する事が出来るものではない、予輩は此の見地よりして、今後の教育者は政治法律の智識の修得に努められんことを要望するのである、縣教育會が市村博士を聘して地方自治の講習をやつたのは時宜に適したことであつたと思ふ、今後此の方面に就て學理とより又實際上より益々研究を續けられ法制智識の涵養に努められたいと思ふ。然らば從來道德のみを自分の領分と思ふて居つた教育者は此の点に就て多少の考慮を要するのである、先づ、予輩は茲に、

道德と法制との關係、を論じて見るのも強ち無用の事ではあるまいと思ふ、予輩市村博士の講筵に列して博士の此点に論及せるを拜聴して、大に共鳴せざるを得なかつたのである、予輩の信する所によれば道德は善の觀念を基礎としたもので、法制は正の觀念を基礎としたものであると思ふ、然らば茲に善の觀念と正の觀念とを明かにせなければならぬ、倫理學の説明する所によれば善とは目的に適つたもので正とは法則に適つたものである、例へば茲に一冊の書物がある、これが吾人の修學の目的に適つたものなら善い書物である、之に反するものは悪い書物である、次に一定の法則や寸法定規に適つたものは正しきものである、之に反するものは不正である、而して善の觀念と正の觀念とは根本に於て一致す



べき性質のもので、決して矛盾すべきものでない、但し善行は正行より範囲は廣い、故に道德と法制とは根本に於て一致すべきものであるか、其範囲に廣狭の差がある、即ち法制は道德の内に含まれるものであると思ふ、市村博士が法律は道德の最低限度を示すに過ぎないのである、と述べられたのは實に此の意味に外ならぬと信する、今之を、

法制史に徴す

法制史に徴するに、古來人智未だ發達せざる社會に於ては法制と道德全く混同して居つたのである、我國の歴史を見ても歴代の皇帝は祖先崇拜祖孫相續、氏神祭祀等の制度を定め、常に忠孝一本の主義に依りて人民を統治し給ふたのである、彼の大寶律令の如きを初めとして徳川時代の武家法度、諸士法度に至る迄、皆道德の教則を基礎とせる法則である、

即ち道德は法制の重要なる基礎をなしたので、道德と法制とは殆ど區別の付かない状態にあつたのである、然るに人智漸く進み、社會の組織益々複雑なるに従ひ、法制は漸次道德より分化して來たのである、今日に於ては兩者の區別が截然たるにも拘はらず、尙行爲の善意と惡意とにより法律の保護を異にし、或は善良なる風俗に反する法律行爲を無効となし又親族及相續に關する規定は我國古來の家族的道德を以て重要なる立法の理由となして居る、又犯罪人の情狀を酌量して刑罰を減輕するが如きは明かに兩者の關係の親密なることを示すと同時に、分化したる法律が其親元の資格ある道德に對して多大の敬意を拂ふて居ることが分かる、市村博士が法律は手段であつて、其背後に存する精神及道德と結付いて、



其目的を達すべきであると思ふ、又市村博士が引例せる梅博士が時効に係つて居る債務を辨済したり利息制限法に規定せる以上の高利を拂つたといふ事は、其手段たる法律の條文に據らずして寧ろ約束信義を守れといふ道德に従つたのである、ろくに梅博士の人格の高尙偉大なる處があるのである、予輩思へらく、目的さへ達せられるならば豫期せる手段は必しも用ゐる必要はない、例へば爰に護身用の懷劍を携ふる人ありとせんに、この懷劍を用ゐずとも護身の目的が達せられるならば、ダトヒ敵に逢ふと雖も、強ち拔劍するにも及ぶまい却て妄りに劍を振り廻はすが如きは實に卑怯未練の所爲であると思ふ、市村博士が何事も法律を楯に云ふのは耻辱とせねば、

ならないと述べられたのも同じ意味であらうと思ふ。

先頃某縣の教育會に於て一人の教員が演壇に登りて、現代教育の缺陷を説き遂に例の

#### 演職事件

演職事件 に論及して次の如く述べられたそうである、

彼の香舟の魚を逸して細鱗を網し以て刑事政策の妙用を得たりとせば我々の如きも、、、、大に之を活用して可なり云々」

と是に就て予輩をして言はしむれば、彼の演職事件は憲政の目的に反したもので、如何なる理由ありとも道德上の制裁を免るゝことは出来な



る目的精神と相背馳することがないと認められたならば、刑罰を執行するに及ばない是れ則ち所謂刑事政策とかいふものであらうと思ふ、然れども前述の如く道徳上の制裁は免るゝことは出来ないものである故に「吾々も大に活用して可なり」などいふのは實に思はざるの甚しきものである、市村博士の例証せる立小便のことに就て考へて見ても、立小便禁止の法則の精神は衛生上又体裁上から善くないといふのであらうと思ふ、然るに人通りなき夜中に而も大雨の際に場末で一才失敬した所が強ち立法の精神と背馳するのではあるまい、故に嚴重に責むべきではないと思ふ、そこで吾々の如き素人考へにも刑は必罰のものでないといふことは道理上可能であると信ずる、是則ち法律は其背後に存する精神を貫徹す

る一ツの手段に過ぎないものであるからである、其精神といふものは道徳上の夫れと全然と一致すべきものなることは前述の通である、然るに妄りに條文の末に拘泥して立法の精神を閑却するが如きことがあつたらば却て法の豫期と反對の結果を生じ、或は世を害し人を傷ふに至るやも知れない戒しむべきである、予輩は本年の講習會に於て自治行政の講習を行つた趣旨に賛同して將來益々教育家が、

法制に関する  
智識

法制に関する智識、の修得に努められんことを望むのである、否、寧ろ之は時勢の要求である、然しながら之と同時に常に道徳と法制との關係辨へて法の運用を誤ることなきやう注意せなければならぬと思ふ、近時朝野の識者の間に盛んに政治道徳の振興を唱導せられて居るのは、ツマリ



我國の缺陷が此邊に存在するのであらうと信ずる、如何に法制が完備しても其運用及遵守に就て國民に徳義心が無かつたならば、其法は遂に空文となり了る、所謂「心外無法」である、今や立憲思想の養成は吾人教育者の任務となつた故に吾々は時勢の赴く所を察し相共に如上の事に留意して大に青年の指導に盡力せなければならぬ聊か所感の大要を述べて賢明なる諸君の教を乞はんとするのである。(沖繩教育所載)

## 九 教育家の大同團結

我が沖繩縣には一つの特色がある、それは縣内方面の人才は多く教育家出身であり、且つ町村の教育者は非常の尊敬を拂はれて居ることである、

想ひ起すプラトーンの理想國は

哲人國

哲人國、であつたことを、即ち國家の中心たる人物は悉く哲人でなければならぬと云ふのである、東洋でも古來爲政者は悉く道德家でなければならぬ、徳なくして高位にあると天罰を免れないと云ふ思想があつた、

この思想は頗る強き勢力を有して居て、歴代の爲政者を戒めたのである、我が琉球にも古へ義本王は自ら徳なきを耻ぢて伊平屋島に遁れたといふ史實さへある、東洋の思想を代表して居る孔子の理想國は

徳治國

徳治國、であつた、予は哲人國徳治國に倣ひて本縣を

教員國

教員國、と云ふても間違ひはなからうと思ふ、願れば本縣今日の開明は

過去の教育の賜であると同時に、將來の發展は是非共教育の力を借らな



け、いはならぬ、産業の發達も政治の進歩も社會各種の事業は畢竟教育に觸れずして出来るものでない、然るに我國教育者の位置はどうかと云ふと社會の狭い一隅に立籠つて孜孜として働いて椽の下の方持をやつて居るといふ憐れな有様である、古來教育を尊重せない國家が榮へた例はない、今や歐洲各國に於ては

戦後の教育革新運動

戦後の教育革新運動、が行はれて居る、其の趣旨は將來の國方の競争は畢竟國民教育の競争であるといふことは諸家の意見が一致して居るやうである、果して然らば教育者は社會上優越の位置を占めて居らなければ思ふ存分其の手腕を伸ばすことは六つかしい、現今の教育界は天下の愚才のみを収容した譯でもあるまい、幾万の教育者の内には必ずや超凡の

大才も少くないだらうと思ふ、然るに今日の狀態では教育者の驥足を伸ばすことは困難である、従て其才能を發揮することも頗る困難である、又物質上に於ても精神上に於ても待遇せられて居る、此くの如くにして國家の隆昌を希ふが如きは思はざるの甚しきものである、近時國家社會に於ては大に覺る所ありたりと見へ、ソレ立憲思想の養成ソレ青年團の指導ソレ海外觀念の養成ソレ自治民育ソレ体育の獎勵など、國家の重要問題はどうしても教育者の力を借らなければならぬといふ様になつて來たソコで初めて教育尊重とか教員優遇とかいふ聲が高まつて來たことは後ればせながらも眞に喜ばしきことである、熟々考ふるに現今

社會の通弊

社會の通弊、は不眞面目の人物が多いことである、然るに比較的教育者



は眞面目である、寧ろ眞面目過ぎて偏屈の嫌もある位である、予輩は今日の法治國に慊らぬ所があり、孔子の理想たる徳治國に憧憬する所が多い、ソコデ今日の社會に於ては眞面目なる徳行家が社會の各方面に入りて勢力を振つたならば、社會の通弊を或程度迄は救済することも出来やうと思ふ、教育尊重の趣旨も亦此邊に存するのだらふ、處が

我が沖繩縣

我が沖繩縣、に於ては教育者出身が各方面に牛耳を取つて居つて、人才も又其内に多いのである、故に之等の人才が協力一致して懸つたならば教育の振興は勿論人文の開發を進めて社會の改善を圖ることは左迄困難の業ではあるまいと思ふ、否寧ろ最も便宜の状態にあるのである、この状態は日本全國にも採用して見たい本縣の特色である、然るに近時屢々予

輩の聞く所によれば嘗て教育界に在つたもの、中には去つて政治界や實業界に入ると忽ち其

因縁深し

因縁深き、教育界を呪ひ、甚しきに至ては之に又を向けるものさへある、其眞意果して何れにありやは俄に判定し難いが此くの如きは本縣のために悲しむべきである、又現に教育の任に在るものも己に教育界を退いた人に對して恰も離縁したる相手方を遇するやうであつてならぬ、現に其職に有ると無きとに係らず元と是れ同胞宜しく

大同團結

大同團結、となして互に善意の後援者となり内外相呼應して社會の公事に當つたならば教育問題は御手の中、本縣各種の問題は談笑の間に解決することが出来やうと思ふ、若し果して此くの如く我教育國の特色を利



用して人文の發達上に貢獻する所があつたならば豈啻に本縣教育界の美事のみならんやだ、大正六年の新春を迎へ爰に所感の一端を述べて諸君の健闘を祈る。(沖繩實業時報所載)

### 一〇 大に體育を興すべし

獨帝の豫言

獨帝の豫言、獨逸カイゼル豫言して曰く、將來一大發展をなして世界に雄飛せんとするは日本國である、故に日本を世界の地圖上より抹殺せなければならぬ、幸ひ日本は最早世界地圖より抹殺せらるへき弱点を有つて居る、見よ

- 一、日本國民の体力は漸次低下しつゝあり
- 二、日本人は西洋文明を摸倣して、自由思想や個人主義に憧れつゝあり

### 三、日本人は今や拜金宗に陥れり

こは單に一種の空言として看過する譯にはいかないだらうと思ふ、見よ我國民の体格は漸次低下しつゝあるではないか、國民の思想は混乱して利己的個人主義は各所に充満せんとして居るではないか、カゼイルの批評は或点に於て適切なるものがあること否むことは出来まい、吾々は外國の君主より斯る忌々しき豫言を聞くのは實に憤慨に堪へない次第であるが、此の豫言が吾々をして大に反省せしむるものあるを悲む、今や我國民の思想は整理する必要がある、各社會に於て利己的情弊を一掃するの必要を感じる、予は此等の点に於て大に言はんと欲するものがあるが、是より更に急なるものがある、其れは國民体力増進の必要である、



今や我國人の体力は漸次低下しつゝあることはカイゼルの言ふ所と寸分も違くないのである

邦人体力下落の趨勢

邦人体力下落の趨勢、に就ては醫學博士男爵高木兼寛氏が周到なる研究調査を遂げて居る、同氏は國民体育奨励會長として熱心に特有の体育説を鼓吹して居る予は先頃出京の時其講演を拜聴した同男爵は予が舊知の人である、依て或夜男爵邸を訪ふて國民体育の現状及其救済に就て色々高見を承つて、國民体育の増進を圖るは實に刻下の急務であると感じたのである、以下其大要を記して参考に供しよう

邦人享年 邦人の享年、即ち日本人の壽命は年々短くなることは衛生統計表の示す所である、日本人の享年を表を以て示せば

明治十九年	男	三八、一三	同	女	三八、九一
明治四十三年	男	三〇、九九	同	女	三一、三六

此表の如く邦人の享年は年々減して來た、即ち明治十九年に於ては日本男子の享年は三十八年と一三、女子は三十八年と九一といふことになつて居つたが、明治四十三年には男子は三十年と九九となり、女子は三十年と三六に減じた、其差は非常なもので一見して驚く外はない、次に死亡率を外國と比較して見やう

死亡率 (千人に付き) 明治十九年乃至四十三年、每五ヶ年平均

第一	第二	第三	第四	第五
日本	二〇、六	二一、一	二〇、七	二〇、九
	二〇、九	二〇、九	二〇、九	〇、三

第一の第五に比し増減



佛國 二二、〇 二二二、三 二〇、七 一九、六 一九、二 二、八  
 獨逸 二四、四 一三三、三 二一、二 一九、九 一七、五 四、九  
 英國 一八、九 一八、七 一七、七 一六、〇 一四、七 四、二

此死亡表は明治十九年より四十三年に亘るものを五年宛平均して算したものである、日本人の死亡率は殖へて萬人に就て三人多く死ぬるやうになつたが、西洋の死亡率は減して佛蘭西は萬人に就て二十八人の死亡者を減して居る獨逸は四十九人、英國は四十二人の死亡者が減した譯である、是れ確かに國民の衛生状態が日本よりは西洋の方が優つて居る証據である、日本人は死亡率が殖へて居るといふが、然らば如何なる年齢の人が最も多く死ぬかといふことを調べて見ると、生後

三十歳迄の人が死ぬ

三十歳迄の人が最も多く死んで 居る、即ち貴重なる兒童と青年とを失ひつゝあるのである、日本では出産率は幾分かづゝ殖へては居るが、三十歳迄に死亡する人か多いから、粗製濫造の人間を作つて居る譯である、未成品の人間を亡くしてしまうのである、國家の前途を考ふれば實に寒心に堪へない次第である、次に

壯丁及學者の体力低落の状況

壯丁及學者の体力低落の状況 を表示せやう、此を一見せられたならば何人も一驚を喫するであらう、殊に教育家は學校衛生の忽せにすべからざるを一層深く感ずるであらうと思ふ

壯丁百人ニツキ	疾病ノ爲徴兵検査ニテ	筋骨甚薄弱ノ爲丙丁
甲種合格者數	丙丁トナレル者ノ増加	種トナレル者ノ増加



明治四十二年	三九、一 <small>人分</small>	明治四十二年	壯丁百 人二付	一八、五 <small>人分</small>	明治四十二年	九二六、一 <small>人</small>	壯丁百 人二付	二、〇 <small>人分</small>
同四十三年	三九、五	同四十三年	同	一八、八	同四十三年	一〇七、八		二、五
同四十四年	三八、四	同四十四年	同	一七、一	同四十四年	八一九九		二、〇
大正元年	三六、七	大正元年	同	一九、二	大正元年	一三七二四		三、〇
同二年	三六、五	同二年	同	二〇、二	同二年	一四八二三		三、三
僅に五ヶ年間に 百分ノ二六を減 じて居る		五ヶ年間に百分ノ一七 を増して居る			五ヶ年間に百分ノ一三を 増して居る			

學者 身體ノ薄弱

學校別 學位等級	大學卒業	高等學校 專門學校	中學卒業	高等小 學卒業	尋常小 學卒業
甲種	千分比 一一、五	千分比 一八、五	千分比 二五、二	千分比 三九、六	千分比 三八、三
第一乙種	一三七	一四八	一五五	一六九	一六三
合計	二五二	三三三	四〇六	五七一	五四五

本邦の教育は其程度高ければ高き丈健康を害するを見る如此虚弱なる者が國家事業の幹部員となり事業に従事するも成績の擧らざるは當然と云はねばならぬ實に國家の大患である

今や國運隆々として世界的大發展をなすべき運命を有つて居る我邦人の体力が斯の如く年々虚弱になりつゝあるといふことが、獨逸のカイセルをして前記の豫言をなさしめたる一つの理由であると信する、實に慨嘆



に堪へない次第である

砂上の樓閣

砂上の樓閣、ソレ軍備擴張とか、産業獎勵とか、教育振興とか、其他何とかかとか爲すべきことは甚だ多いが、國民の体格がコンナ有様では、何の事業も砂上に樓閣を築くやうなものだ、國民体育は今後の教育上最も重大なる問題である、否國家の大問題である

今や各府縣は体育獎勵の聲高く、現に群馬縣の如きは縣下の壯丁身体検査の成績の良なるのに鑑みて近年各町村の學校に於ては各數百圓の大金を投して体育設備を完成して青年會と相俟つて大に体育を獎勵して居るといふことである、文部省に於ても省内に學校衛生課を置く事になつた、福岡縣に於ては本年度より縣の學務課の中に學校衛生主事を置いて

大にソレが改善を圖らんとして居る、熊本縣に於ても已に同様の計劃成り目下主事醫の人選中だと聞いた、鹿兒島縣に於ては縣民の体格に就て縣の醫師會に縣知事より諮問になつて居るとの事であるから早晚何等かの具体的案となつて出ることゝ信ずる

我沖繩縣人の  
體格は如何

我沖繩縣人の體格は如何、之を全國壯丁身体検査の結果によれば日本國中最劣等の部に屬する、今茲に全國の壯丁検査表をも示す煩はしければ九州方面の分のみを表示して参考に供しやう

受檢壯丁トノ千分比

(大正四年度)

甲種	第一乙種	第二乙種	丙種	丁種	戊種
----	------	------	----	----	----



福岡	三四〇	一六三	一九一	二二〇	六七	九
大分	四三四	一四四	一五六	二〇〇	五六	〇
佐賀	三二八	一六四	一九九	二四三	五七	九
熊本	三八七	一七三	一五二	二二一	六〇	七
宮崎	三四〇	一四八	一九八	二二八	七二	一三
鹿児島	二七六	一八〇	二〇五	二四五	八五	九
沖縄	二六五	一六三	一四八	二八七	一三〇	五
全国平均	三五八	一五四	一八五	二三四	六一	八

此表によりて見れば沖繩縣は甲種の數最も少く丙丁の數最も多い、斯る劣等の成績を示して居る本縣に於ては之を等閑に附する譯には行かぬ、上下一致して縣民体力の増進に努力せなければならぬ殊に教育の職に在

るものは率先して之が研究を遂げて兒童生徒の体育に盡力せなければならぬと信する

今後の體育の方針

今後の體育の方針、として吾々の感して居る所を述べて教育家諸君の教へを乞いたいと思ふ

一、從來の體育は兎角消極的に流れ、如何にして病を避けしむるかにあつたが、今後は如何にして体力を増進せしむべきかと積極的研究でなければならぬと信する

二、從來は野球とかテニスとか少部分の人のみ運動する遊技が行はれたが、今後は學生全体否國民全体の體育を如何にすすべきかを研究せなければならぬと信する。(沖繩教育所載)



## 一一 宮古郡教育改善

教育は活きた事業である、それで其の土地に適應して施す必要がある、従つて其の土地に就ては豫め觀察することを要するのである

交通不便と教育

宮古郡は交通不便なる特色を有つて居る爲めに外來の影響を受けることは少ない、従つて全郡の教育は徹底し易い、教育家諸君の人格の影響が偉大であることは今回視察の際著しく感じたところである、他府縣では教育者は他の社會から壓迫されて容易に頭があがらない、この頃頻りに教育尊重の聲の起る所以である、本縣は一般に教育者の社會的勢力は強いが本郡は特に著しいやうに思はれる、外部にあらはれたものでは普通

人格の修養

語が十分に普及して居ることでも知ることが出来る、斯くの如きことは是即ち外來の悪影響が少ないのに原因して居るのである、而してこの傾向は孤島になる程著しくあつて又教育者の責任も次第に重大になるのである、それで本郡の教育者に望むことは大いに人格を修養せよといふことである、私は曩に附屬小學校の合同研究會で現代の教育は人格の背景がないから良しくないといふことを話したことがあるが本郡に於て特にその必要を感じたのである、

斯くの如く本郡は悪影響を受けることは少ないが其の代り善良なる影響をも受けて居らぬ、即ち「智識の方面」では同じ種類の人ばかり集つて居るから、刺激が少ない従つて智識淺く見聞狭く時世を知ること困難で



## 自覺の意義

あるのみならず比較するものがないから自己をも知らないのである、近來本島地方では教育者諸君が自覺といふことを口にして居るがこの自覺は個人主義的の利己主義的の自己の利害を知つただけに止まるもので、全体としての自己を自覺したのではないやうである、本郡に於てもこの意味に於ける自覺者は少ないやうである、俗に「東京の晝寢と田舎の勉強」といふことがある、東京は種々の刺激が多いから田舎で勉強して居るよりも智識が増進するといふ意味である、日本が維新以後長足の進歩をなしたのも國民が漸々鎖國攘夷の夢からさめ、日本が西洋諸國に劣れる事を自覺した結果、今日の文化をなしたのである、今回の歐州戦争によつて種々の訓戒を受けて居ることも事實である、本郡にはこの種の刺

## 交通と公德

激が少ないのを遺憾に思ふ、交通不便の結果は社會的道德（公德）の欠陥を生ずる、而して道德は社會的道德と家庭的道德とに分つことが出来る、日本は家庭的道德はよいが社會的道德は劣つて居る、それゆゑ今後社會的道德の欠陥を補ふ必要がある、社會的道德の欠陥には種々あるが他人の名譽を傷けることや、家庭に於ける君子人が社會に出ては道德を重んぜず、集會の時間に後れたり、旅の恥はかきすて、などといふことはその例である、而してこの傾向は狭い所程著しくなるものであるから交通不便なる當地では公德の養成は急務である。

## 地と人

それから土地と人との關係も大なるものであつて山國育ちは偏狹、平原生れは鷹揚、宮古のやうな島國の人は所謂島國根性を有つものである島



國根性は勿論よくないが海國根性となれば大變良しい、この狭い宮古を一生の活動舞台と思へば島國根性を生ずるが人間到處青山ありとなれば自然海國根性となる、英國人は既に海國根性である彼等は本國を母國（マザー・カントリー）といふて居る而して彼等のホーム（家庭）は船上にもあり南洋にもあり、どこまでも行くところ即ちホームがある必ずしも母國にのみホームがあるのではない。

### 教育改善策

私は本郡の學校で兒童に華嚴瀧の高さを聞いたところが、大概一間位だと答へ又或學校で支那の平原の廣さを聞いたら伊良部島の五倍位あるだろうと答へた是は地理の影響を受けて眼光が少さくなつて居るのである、以上本郡の欠陥と思ふところに就てお話したが之が改善策として教育者

の努むべきことは内にあつては校内、研究會、隣校、研究會、教育部會等で研究を盛んにすると共に部會の事業として簡易圖書館を設立して大に讀書趣味を養ひ尙外にあつては縣外視察員を派遣し又附屬の合同研究會にも奮つて出席し講習會を開催して他府縣から講師を聘し以て智識を増し見聞を廣くするやうにせねばならぬ。（宮古郡教育部會講話）

### 一一一 漢學と我國民性

#### 漢學の衰微

近來漢學は大体に於て衰へて居る、今日の青年の中には漢學は白髯の老人の業だなどと思ふて居るものもある、之は無理はない、相當の有識の人でも漢學を餘りに重んじて居らぬものもある、漢學を輕んずる人の考は漢學の思想は最早時代に遇はないと言ふこと、漢文漢字は作り方書



き方が洋文洋語の夫れよりも頗る困難であるといふ理由に歸着する、此の如くにして漢學衰頹の機運が益々甚しくなつて儒教其他の諸子百家の書は皆陳腐なる糟粕と認められた結果、文章や思想の上に大なる影響を與へた、即ち文章は段々マヅクなる、誤字やあて字が多く用ゐられる、思想上にも古風思想が一扫せられ、一知半解の西洋思想が流行して我國の思想界を混亂させた、思想混亂の結果は現代社會に對して懷疑を抱いたり、舊道德を破壊する様な思想もありて随分危険のものもあるやうである、又トへ危険迄には行かすとも輕薄なる思想が天下に瀰漫して居るは事實である、實に國家のために憂ふべきである、是に於て予輩は古來國民道德の涵養上歴史的に逸すべからざる漢學と我國民性との關係を一

瞥して、聊か所感を述ふるも強ち無用の業ではあるまいと信する、予は今漢學を文章上の方面と思想上の方面とに分ちて其關係を論じて見やうとおもふ。

文章上の方面

一、文章上の方面、我國の文章を書くにどうしても漢字漢文の力を要する、今日の青年が作文力に乏しいことは世人のよく言ふ所である、又文字の智識の不確實で誤字などの多いのは實に驚くべきもので之も教育社會の大問題である、此の弊を救ふには國文漢文を獎勵せなければならぬと言ふのだが國文といふものは漢文漢字と密接不離の關係を持つて居る、我國文は長い間漢文の力により歴史的に倍養せられて今日に至つたのだ其れ故に漢文を除けては充分に國語を解釋する事は出来ない譯であ



る漢學は此点に於て甚だ重要な關係を持つて居る、然し今日の文章は技巧修辭といふよりも寧ろ達意的の方面に傾いて來て漢文の誇張的な又簡潔的の風は漸次遠ざけられて言文一致の半の涎のやうなダダラと書き流す風が流行して來た、故に最早文章上には漢文の必要は餘程減じて來たとも言へるが之は程度の問題で漢文不必要を唱る理由にならない、然し予が漢文を重要視する主なる理由は文章上の方面ではなく全く思想上の方面である、即ち我國民の思想と漢學との關係である。

思想上の方面

一、思想上の方面、漢學が我國の思想界に權威を有つことの出来るのは全く我國民の思想上の方面寧ろ修身道德の方面に於てである、實に漢學の思想は我國民の心底に深く刻まれて千古不拔の根底を作つて居る、我

國民の思想界には漢學思想が潜勢力となつて其れが吾々の日常の云爲行動の上に活躍して居る、之は將來永遠に消滅することはなからうとれもふ、六ツかしい漢字や漢語は最早不用になつたものがあるには違ひない、六ツかしい漢字が不用になつたからといふても千餘年間涵養せられた漢學思想といふものは最早我國民の思想と一致結合して離るべからざる關係になつて居るので到底消滅することは出来ないのみならず、益々培養して發展させて行かねばならぬものが少くない、今茲に漢學思想と我國固有の思想の一致を例証せんには頗る廣汎であるが其著しき例を儒教の經典の中より摘出して見やうとれもふ、我國固有の道德思想は要するに忠孝一本、家族制度、祖先崇拜、義勇奉公、清廉潔白などが其の特



色で萬國に卓越せる美風良俗である、之が漢學即儒教の渡來により益々培養せられて偉大なる發展を續け我國体の精華を發揮して遂に今日の盛時を致したのである、今日では全く密接附合して其分ちが付かなくなつた、其の二三の例を示せば孝經の中に

以孝事君則忠

之は支那の文句であるが之の思想は支那には行はれては居らぬ、却て之は我國固有の忠孝一本の思想と言ひ表はしたものとやうで之の温い美しい思想感情は世界廣しと雖も日本の外にはない、又論語の中に

子張曰 士見危致命 見得思義 祭思敬 喪思哀 其可已矣

是れ國家危難の際には生命を輕んじ利益を捨て、義理に就き祖先の祭を

敬み、喪を重んずる全然日本國民の特有の美風ではないか。

子曰 志士仁人無求生以害仁 有殺身以成仁

之の壯烈なる献身的、犠牲的精神は實に日本男子の最高の理想で楠公や乃木大將の如きは之を實現せる日本の偉人である、更に孟子を繕けば

富貴不能淫、貧賤不能移、威武不能屈、此謂大丈夫、

大丈夫とは國語にて「ますらを」と訓す、之れ權門富貴に屈せざる日本男子の意氣の躍々たる處でどうしても支那思想とはおもはれない、滔々として迎合阿諛を事とする腐腸漢の多き我國現時の状態に於て誰か之を時勢後れの思想となすものぞ

かく論じ來れば儒教の思想は日本固有の美風と全然一致するの處がある、



佛教の我國民思想の上に大なる貢獻をなしたことは事實であるが儒教の夫れに比すれば遙かに少ない、先きに予輩が漢學は衰へたと云つても其思想は我國民の心底に刻み込まれて永遠に消滅することはなからふといつたのは實に此をいふのである、否寧ろ此の美しき思想は將來益培養して國民道德の發展を計らなければならぬ、予が漢學を重要視するのも全く此の意味に外ならぬ、繚つて維新前後の歴史を掃いて見るに彼の尊王論の先驅をなしたのは國學者で荷田春滿、加茂真淵、本居宣長、平田篤胤等の國學の大家があつて尊王論の種を蒔いたのだ、之れはナカ／＼大なる功績だ然し、愈々アメリカのペルリが軍艦を率ゐて來た、露西亞の船が來たのと國中の大騒ぎとなつた時、斯様な國家危難の際に驟然とし

て劍を執つて立ち一身一家を顧みずして國事に奔走したのは多くは漢學者である、例へば水戸は尊王攘夷論の本陣で徳川義公以來修史の事業を中心として養成された、朱子學の系統である、藤田東湖を初めとして勤王家がナカ／＼多く出た、蒲生君平や高山彦九郎や頼山陽の如きは水戸學派ではないが水戸學派と同一の思想を持つて居つた頼山陽の家は朱子學派の家であつたそうだ、又梅田雲濱の如きも朱子學の系統を引いて居る、又佐久間象山、横井小楠、吉田松蔭、西郷南洲などは陽明學派の人である、以上の志士とか勤王家とか言はるゝものは皆儒學者である、漢學仕込の人物である。

維新以後まで残つて居つた伊藤公(博文)山縣公(有朋)井上侯(馨)桂公



(太郎)乃木大將、兒玉大將等の所謂長洲系の功臣は皆直接間接に吉田松蔭の薫陶を受けた人である、今日迄長州に人材の多かつたのは全く吉田松蔭のた蔭であるとおもふ、又松方侯(正義)大山大將、樺山大將、野津大將、山本大將、東郷大將、上村大將等の薩州の豪傑は皆西郷南洲の薫陶を受けた人である、されば長州の本尊吉田松蔭も薩州の本尊西郷南洲も共に全く儒教仕込の偉人で漢學者であるから薩長の功臣は皆一面に於て漢學仕込の偉人であると言ふてよい、又學者の中でも維新後に學界の權威者であつた、中村敬宇先生や西村茂樹先生や加藤弘之先生などは漢學者であつて西学の學問を修めた人である、今日の政治家や學者は智識才幹に於ては或は勝つて居るかも知らねが意氣や氣骨は實に乏しいやう

である、其れが爲めかどうも崇敬の念が起らない、之を維新前後の人々に比すれば土臺、人物の點においては天地の差があるやうにたもはれる。漢學と我國民と關係の甚だ重大なるものである事は大体前述の通りである、然らば漢學の本場たる支那に日本の漢學者の如き人材が少ないのは何故かといふ疑問が起るに相違ないが一体儒教は支那には充分成長結實しないで却て日本に来て成長を遂げ花を咲き實を結んだと云ふ事が分つたら其の疑問は解けるであらうとおもふ。

茲に一つ不思議なのは前述の如く尊王論を最先に主唱したのは國學者であるから維新前後の殉國の志士とか勤王家と言はるゝものが國學者の中に多くありそな者だが、之を漢學者に比すれば其數甚だ少ないのは奇



中の奇といふべきである、國學は實に日本精神のある所で日本道德の中堅であるから實に重要なもので之は益々研究して發達を計らなければならぬ、併しながら只遺憾にれもふのは萬葉集や枕草紙や源氏物語や徒然草などは大に他には取る所はあるには相違ないが修身道德の書とする譯にはいかないとれもふ、佛教も又日本國民思想の上に大なる貢獻はあるから之を輕視する譯には行かないがさりとて阿彌陀經や法華經を以て今日の修身書にするのは不適當であらうとれもふ、然るに漢學即儒教の經典たる論語、孟子、大學、中庸などは今日でも修身道德の絶好の讀物として、一般に推奨する價值あることは何人異論はあるまいとおもふ、我國には畏くも 明治天皇陛下の下し給へる教育勅語が我が道德の大根本

## 絶好の讀物

となつて居る、故に之の御趣旨を貫徹するには他に幾多の研究を要するのである、ソコデ國學も西洋學も宗教も夫れ々其方面に於て各任務を有つて居る、然して漢學即儒教の思想も勿論時勢に遇はない所もあるには違いないが、大体に於て長所が多い故に國民の道德思想の涵養には與つて、實に偉大の力があるのみならず我々の日常の實踐上に於て處世の教訓として實に貴重のものであるとれもふ、予が如き淺學不才のものが時々自己の言行を反省して論語を繙けば聖人が手を取つて、予を教ゆるやうで實に慚愧に堪へない事が度々ある、且つ古今に卓絶せる大人格者の言であるから教訓には絶大無限の權威があるを覺ゆる、今日の學者の説教や學校の修身書などは智的要求を満足することは出來るだらう



が、情、的、の、満、足、は、容、易、に、得、ら、れ、な、い、や、う、で、あ、る、故、に、人、物、の、感、化、と、い、ふ、こ、と、は、ナ、カ、く、六、ッ、か、し、い、や、う、に、お、も、は、れ、る、カ、ク、申、せ、ば、ソ、レ、は、あ、ま、り、古、風、な、考、だ、な、と、い、ふ、人、も、あ、る、か、も、分、ら、ん、が、焉、ん、ぞ、知、ら、ん、輓、近、の、西、洋、の、新、思、想、が、漸、次、東、洋、的、色、彩、を、帶、び、て、來、る、傾、き、が、あ、る、と、い、ふ、こ、と、よ、り、察、す、れ、ば、漢、學、の、必、要、を、絶、叫、す、る、は、豈、啻、に、予、輩、の、一、家、言、で、は、あ、る、ま、い、と、信、ず、る、の、で、あ、る、新、思、潮、の、研、究、者、よ、新、思、潮、の、研、究、大、に、可、な、り、然、れ、ど、も、之、と、同、時、に、我、國、民、思、想、の、發、達、の、跡、を、考、へ、て、其、取、捨、を、誤、る、こ、と、な、く、ん、ば、幸、で、あ、る、(沖、國、民、報、所、載)

### 一三 今後教育の努力点

我國古への學問は道德の教で當時の教科書たる四書五經の如きは實に修

維新以後の教  
育と其弊

身齊家より治國平天下を教ふる道德經であつた、其教育の方法は教師自ら實踐躬行を以て子弟を導いたのである、教師の人格も實に一世の師表たるの資格を備へて居て、一旦師となれば王侯も禮を以て下るといふ風で、教育者は一種侵すべからざる權威を有つて居つたのである。

又武道も必須の學科目であつて、所謂文武兩道と稱して一匹一人の男子は必ず文と武とを兼修しなければならぬのであつた、文は即ち德育で武は即ち體力であつたのである、かゝる教育によりてナカク偉大なる人物を出した即ち西郷南洲、吉田松蔭、藤田東湖、横井小楠などは此の學風の生んだ最後の偉人である。

然るに維新以來西洋の學術技藝を輸入するに忙はしくて、成るべく早く



之を理解し、成るべく早く之を傳ふるといふことが急務であつたので、自然と教育は智育を偏重せざるを得ないことになつて來た、この偏智主義は我が學海にも思想界にも滔々として流行して、我國文明の發展上大なる貢獻はあつたが、一利一害は免れぬので、其弊害も少からざるものがあつた、今茲に其弊害と見るべきものを擧げて見れば

## 思想の混亂

一、思想の混亂 何でも西洋の新しいものであればドシ／＼輸入したので、學術文藝宗教法律等を通じて色々な思想が這入つて來た即ち個人主義、本能主義、自然主義、社會主義とか何とか、盛に入込んで來て、我國民の思想は混亂せられて、取捨に苦み、方向に迷ひ、中には随分危険なる思想があつて社會に非常の害毒を流したのもある。

## 情操の乾涸

二、情操の乾涸 智は冷性のものである、故に智育偏重の結果は情操の乾涸を來した、即ち高尚優美なる人情を解せず、頻りに理屈を並べ立てる人物が多くなつて來た、元來日本人は歴史的遺傳により何等の理屈なしに忠孝一本の教義を基礎として、國民的情操を養成せられたのである、由來國民道德は智的のものでなく感情的のものである、忠臣孝子の事蹟が人をして感奮興起するに足るものあるは全く熱烈なる情操の作用である、智育一點張りでは血あり涙ある義人を作ることには出來ない、今日人情は輕薄となり、父子兄弟の間、師弟の情誼が往時の如ならざるは偏智教育の一の弊と見てよからうと思ふ。

## 意思の薄弱

三、意思の薄弱 換言すれば實行力が乏しくなつて來た、偏智教育の弊



は早分りのする小智恵の人が多くなつて、實踐躬行の偉人が少くなつて來た、古へは言訥にして行に敏であつたが、今日は大言不實行、の徒輩が多くなつて來た、從て言行に責任なく、無責任の風が滔々として社會に横流して來た、近時憲政の腐敗、自治の不振を嘆くものが少くないが、之は一面法制の知識の缺乏も一因ではあるが、予輩は責任輕視といふ道德上の缺陷が其主因であると思ふ。

以上の弊害は遂に我國教育の不振を來し、敗徳亂倫の輩が社會に跋扈し世の治安を害し、民福を災するものが少くない、最近の統計によれば教育あるものゝ受刑者が年々増加の傾向ありといふ、加之

國民體位の下  
落

四、國民體位の下落 は近時朝野識者の注目する所となつて來た、智育

に偏重して體育を重んぜざるの結果は教育あるものゝ體力が漸次薄弱となり、所謂教育ある劣丁の増加を見る、教育の普及するに従ひ受刑者と體力消耗者どが増加するといふ、忌々しき惡現象を生じたのは實に國家のため寒心に堪へない次第である。

今後教育の努力點  
近時我教育社會に於ては剛健質實の人物を作れと高唱せられて居る、剛健質實の人とは、體力強く精神力の充實せる堅固の人物でなければならぬ、然らば即ち今後の教育は體育と徳育とに最大の努力を要求するのである、予輩は是に於て我國古への學風に似たる英國現時の教育に憧憬する所が多い。

英國の教育は體育と徳育が主で智育は第二位に置いて居る、運動遊戲は



非常の重要なものになつて居る、英國の學生が「プレイイズファースト スタディーイズセカンド」と言ふて居るそうである、即ち「遊戯は第一、勉強は第二」といふ意味である。

其プレイの目的は公明正大なる品性を作り、剛健なる體力氣力を養成するに在る、彼のウェリントンが「オータローの戦に得たる勝利は學校の運動場で得られた」と言はれたことは、畢竟、運動遊戯に依つて強健なる體力及公明正大なる精神、偉大なる才幹を養ふたといふ意味であり、如何に學校の體育が人の一生に及ぼす影響の大なるかを察知するに足るのである。

我國の學生間に神經衰弱症や、肺病患者の年々増加して行くのを見ては

國家の將來實に憂慮に堪へない次第である體力に於て勝れ、徳性に於て優れて居つたならば、世界到處に於て容れられざるの理あらんや、海外發展の必要、愈々急なる我帝國の教育家!! 青年!! 我沖繩の教育家!! 青年!! 國民體位の向上と其徳性の涵養に向て不斷の努力を惜む勿れ。(沖繩新公論所載)

## 一四 歴史科教授論

### 第一 歴史科と新思潮との關係

(一)

我國維新以來、西洋の學術技藝輸入の必要あるにより、成るべく早く之を理解し又成るべく早く之を傳播普及せしむる事が我國思想開拓上、又教育上實に最大の急務であつたのである。従つて維新當初の教育は主智

主智主義教育の弊



主義となり、智育偏重の教育となつたのである。即ち彼のヘルバルトの教授法の如きは其の適例で、智識を如何にして傳ふるかと言ふ事によつて、教授の段階などを設けたのである。此の主智主義は學界にも思想界にも滔として流行すると言ふ有様で、従つて精神上にも物質上にも大なる利益があつた、又今日の文明は取りも直さず皆此の流潮の賜であつた。併しながら一利一害は數の免れざる處で、是に伴ふ弊害も亦尠なからずあつたのである。即ち世の學者教育者は競ふて新思潮の輸入に努むるに之れ日も足らずと言ふが如き状況で、又後進の輩は一日新思潮に後れば既に時代に後れたるが如き感じを持つたのである。此の現象は即ち舊物の破壊と新物の迎合と言ふ結果を來し、我國の國家皇室を中心と

したる國民的精神の如きは敝履を捨つるが如く棄てて顧みざるのみならず、却つて嘲罵を加へられ、之に代つて歐米の新思潮たる自然主義、自由主義、個人主義、社會主義の如き新思想が盛に輸入せられ歓迎せられたと言ふ事は識者が等しく認むる處の事實である。此の時に當つて我國の思想界は頗る混亂の状態となり、國民は其の適從する處に迷ふと言ふ事になつた事も亦事實である。抑々我國は古來家族制度を以て組織せられ來つた國柄なるが故に、其の思想も極めて單純であつたのであるが、此の種々の新思想輸入の爲めに國民の思想を混亂し、其の結果我國の存續と發展とに對して障害を來し、我國の基礎を危険の状態に導くべき所謂危険思想の勃興を醸したと言ふ事は事實であつて、是れは即ち新思潮



の輸入と主智主義の傾向と來つた第一の弊害であらうと思ふ。

## (二)

第二の弊害としては、情操の乾涸とも言ふべきもので、之れは餘りに智育に走つた爲めである。即ち智は冷性にして理性的のものである。箇人に就いて見ても、餘りに理性的の人は研究的ではあるが、精神作用は冷靜である。例令へば父母兄弟に對して何故に孝悌友愛を盡さねばならぬか又何故に吾人は皇室國家に對して忠君愛國を盡さねばならぬかと言ふ様に理窟にばかり走る傾向がある。斯様な理論的のみ走る時は到底我國の如く家族的の發達をなせる國家に於て發達せる孝弟忠信と言ふが如き暖かな情操より發達し來れる徳操の涵養と言ふ事は不可能の事となるのである。元來日本人は殆んど遺傳的に何等の理窟なしに克く忠を

盡し又克く孝を盡し、所謂忠孝を祖先の遺風として之を繼承し來れる美風を有せる歴史を有するのである。即ち歴史的情操的の道德であつて、彼の非歴史の箇人本位の理論的智的の道德とは趣を異にするのである。即ち我國の道德は家族生活の温情より發達し來れる國民的情操であつて、血あり涙ある品性を有する事が國民の特性である。彼の忠臣楠氏の傳を讀み孝子萬吉の傳を讀んで泣かざるものは人にして人に非ずと言ふが如き所に我が國民性の特色を窺はれるのである。冷靜なる智育一點張にては到底斯の如き國民性の發輝は不可能であるのである。即ち我國が世界無比の國體を維持し來れるは、幾多忠臣孝子の事蹟が後世の子孫をして感奮興起せしめたる結果、熱烈なる情操となつて國民精神の中に漲つて來



た爲めである。然るに近來人情は輕薄となり、師弟間の情誼も親子兄弟の間も或はストライキとなり、或は親族間の訴訟事件となりて忌はしき現象を呈するは畢竟新思想の輸入と此の主智主義教育の醸せる第二の弊害にはあらざるかと思ふ。

## (三)

第三の弊害としては主智的傾向は意思の薄弱になる事であると思ふ。換言すれば実行力の缺乏と言ふ事である。物知りのみ多くなつて実行家が無くなつて來た事である。古は「言に訥にして行に敏」と云ふ風であつたが、今日は大言不實行の徒が多くなつて來た。従つて言行に責任がなく、所謂責任輕視の風が滔々として社會に横流して來たのである。

近來社會に於ては主意的教育主義の鼓吹に努めて居る。現今中等諸學校

や小學校の教育に於て法制經濟に關する知識觀念の養成に努力する傾向が高まつて來たが、今日の憲政不振の原因は、法制觀念の缺乏と云ふよりも寧ろ道德上より責任輕視又は責務不實行と云ふ缺陷から來たのではないかと思はるゝのである。現代は政治界と云はず、教育界と云はず總べて議論のみ多くして、實行が之に伴はないと云ふ風である。之れ即ち主智主義教育が醸した第三の弊害であらうと思ふ。

## (四)

扱て前述の如き主智的教育主義の反動として現今最も有力なる思潮と傾向とは如何と云ふに、文部大臣の訓辭を初め、教育家は須らく質實剛健なる國民を造らざるべからずと云ふ様な事になつて居る。特に歐洲戰亂の結果に鑑みる處ありて、從來の如く不健全なる思想の勃興や、情操陶



治を減却する傾向や、意志薄弱に陥るが如き弊を生ずる主智的教育を排斥して、智識より技能にまで進む即ち智より意にまで進む處の主智的教育を要求し、之を高潮力説する傾向となつたのである。之れは實に新時代の新要求である。日本の過去の教育はヘルバルトの教育主義によりて、智の陶冶をせり。然るに教育は智から能に進みて、實行になる意志の鞏固を要する。故に現代の新思潮は皆主智的傾向を有するのである。彼の獨逸に於ては其の勢力文部大臣以上と云はるトミュンヘン市の教育課長ケルシエンシユタイネル氏は現代新思潮のオーソリティーである。氏は普く世人の知れるが如く、多くの著書に於て公民教育を主張し、之と聯關して補習教育を完成する事の必要を解き、單に國家に必要なる智

識を授くることのみを以て満足せず、從來の全教授及び訓練の方法を改良して、共同作業の原則を採ることによりて協同の精神を實地について養成すべき事を論じ、更に箇性の尊重を説き、之れに應じて、實際の作業に従はしむる時期を定め、空想的一般的陶冶の思想を制限して機械的畫一主義を排すべき事、及び國民として其の特有の人格的發表をなし得る力を養はしむる爲め夙に製作創造の働さをなさしむべき事、等を力説して居るとの事である。即ち氏の勤勞學校と云ふのは氏の實際主義作業主義即ち主智的教育主義の主張を實現する目的の學校であらう。前述の如く現今主智的教育思潮の流行を見るに至りたりと雖此に云ふ意志は單に意志のみならず情を包含する處の意志であつて、主情意的とも



云ふべきか、兎に角實行は情的作用の感奮興起に待つものが多いのである。近來の主張たる自學自習主義の唱導は兒童の主意的鍛鍊の目的から出て居るのである。

## (五)

東洋道德の特色

前述の主意的教育は新思潮と云ふも東洋の道德の教育と日本の武士道とは其の特色を有するのである。故に或る意味より云へば近頃の學者がケルシエンシユダイナルを捕へて歡迎せんとする事は、東洋古來よりの學風か人文發達の過程に於て主智主義の爲めに蔽はれ、近頃になりて漸く目醒めて古へに歸るやうなものと見る事が出来る、或學者は最近の西洋の思想は東洋風の色彩を有すると云はれて居るのである。例へば維新前の歴史を見れば徳川時代は儒教が日本を支配して居つた。中にも朱學字

## (六)

徳川時代の儒教

派は徳川將軍の最も尊びたるものであつて、是に依り國家を治めんとした。即ち當時の正學なりし林家の學であつた。

今徳川時代に於ける儒教の沿革を畧述して見ると、第一程朱學派、第二陽明學派、第三復古學、第四神道派、第五折衷學派、第六心學派等に大別する事が出来る。程朱學派の代表的學者は先づ第一に藤原惺窩が我國程朱學派の開祖であつて、次には林羅山が出で、次で木下順庵、雨森芳洲、室鳩巢、中村惕齋、貝原益軒、南學派の祖南村梅軒、山崎闇齋等である。陽明學派の代表的學者は中江藤樹を第一として、熊澤蕃山、大監中齋、三輪執齋、中根東里、佐藤一齋、吉田松蔭などである。

復古學派の代表的學者としては山鹿素行、伊藤仁齋、其子東涯、並河天



民、中江岷山、荻生徂徠などである。

神道派の學者としては、第一に山崎闇齋であるが、其他は儒、老、佛を折衷したる加茂眞淵。儒、老、佛を排斥せるも猶是等思想と没交渉ならざる本居宣長。儒佛を排して老子のみを採りたるも共に儒教と關係ある平田篤胤等の國學者と水戸學派の人々であつて、就中藤田東湖は水戸學派の代表的學者である。

折衷學派に於ては三浦梅園、帆足萬里、二宮尊徳などの諸派學說を考證折衷して獨立的に立脚したる學說を主唱したる人々がある。

心學派に於ては石田梅巖を始めとして、手島堵庵、中澤道二などの人々があつた。

## (七)

東西學派の比較評論

偕て前述諸學派と近代的新思潮と比較して評論すれば如何なる結論を得るであらうか。即ち朱子學派の期する處は修徳と研究即ち實行と學問とを兼ね修むるにありたるを以て、智と意とを兼ねたるが如くであつたが多少格物致知とか窮理とか云ふに重きを置いたため、主智的傾向になつた。是に反して陽明學派は知行合一を主張したのであるから即ち現今の新思潮たる主意主義の思想と見る事が出来るのである。更に復古學派は智的探究に傾き往々道德の實行を疎かにするの嫌があつたのである。即ち智的傾向を持つて居つたのである。又神道學派の中山崎闇齋は儒學として朱子學派に属するも垂加流の神道を創立して實行に重きを置き、水戸學派中藤田東湖も同じく朱子學派なるも神道的崇神愛國の實行に重



きを置きたる點に於て共に主意的思想と見る事が出来る。又折衷學派に於ては三浦梅園の如く懷疑を以て學風となすものもあり、又帆足萬里の如く濟世を以て學問の目的となすものもあり、又二宮尊徳翁の如く實行を主とするものもありて、主智主義のものもあり、又主意主義のものもありて、一概に斷ずる事は出來ぬ學派である。又心學派は神儒佛の三教を混じて巧に當時の平民道德を指導したる點に於て主意的主張の最と見る事が出来る。

## (八)

儒教の功績

然らば前述の徳川時代の儒教が此の明治の維新に際會して、如何なる影響を表はしたかと云ふに、彼の維新の元勳又は志士と稱へられたる橋本左内、佐久間象山、横井小楠、吉田松蔭、高杉晋作、西郷南洲、大久保

利通、などは皆陽明學派の人であつた。又復古學派は一面智的探究的であつたが、其の中山鹿素行は洙泗の淵源に溯つて、古聖人の眞面目を發揮したばかりでなく、物徂徠の徒が猥りに拜外を事とするに反して、我神州の尊嚴なる國體の發揮に着眼して、武士道の鼓吹に努めた事は陽明學派の主意的思潮と能く稽合せる處であつた。彼の吉田松蔭の如きは一面に陽明學派の人であるが、又古學派なる山鹿素行の武士道の流を酌んで更に一段の主意的異彩を放つたのである。伊藤公も、井上公も、兒玉大將も、乃木大將も皆松蔭の直接又は間接の影響を受けて居るのである。又朱子學派ではあるが、神道を起して忠孝一本を主張した山崎闇齋は更に水戸學派の源泉となつて、大に實行的となつて居つた。陽明學の流水



を酌んで居る薩摩の西郷南州は、又此の水戸學派の藤田東湖から受けた影響が大であるから、此處には陽明學の素地に朱子學派の神道化して實行的性質を帯びた分子が混合して居ると見る事が出来る。夫れで大山大將又は、樺山大將や、東郷、上村などの大將も直接或は間接に南洲翁の感化を受けて居ると云ふ事である。以上の如くであるから主智的朱子學派或は古學派が主意的純粹保存主義の神道又は武士道の鼓吹となり更に主意的陽明學派と結合して明治維新の大業に貢献したと見る事が出来るのである。猶繼つて維新前に於ける代表的學者に就いて見るに、彼の朱子學派の貝原益軒は教育學者として價値を認むべく、又陽明學派の中江藤樹は道德の實踐躬行の點に於て特色あるが如く、又復古派の伊藤仁齋

は英國グリーン氏に比較せらるゝが如き倫理學者と見るべきである。同じ復古學派の荻生徂徠は政治學者と見るべきである。古學派朱子學派は本來は主智的傾向を有し居たる證據である。處が朱子學派の闔齋が神道と結合したる爲め遂に水戸學派を起して主情的となり尊王論を湧出せしむる事となつたのである。又古學派の山鹿素行が國體的自覺を起した爲めに武士道論となつて赤穂の義士を出し、陽明學と結合した爲めに吉田松蔭や、乃木大將などを出す事となつたのである。單に主智的のみの教育主義は荻生徂徠の如く血も涙もなき冷靜なる學者を作り出す弊に陥るか、然らずんば伊藤仁齋の如く徒に仁義を説くのみにして實行を閑却するの弊に陥るのである。彼の西郷南洲の詩に